

創薬ベンチャーエコシステム強化事業

Strengthening Program for Pharmaceutical Startup Ecosystem



国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
Japan Agency for Medical Research and Development

創薬ベンチャーエコシステム強化事業

事業概要

近年の新薬の大半は創薬ベンチャーが開発したものであり、今般のパンデミックに際していち早くワクチン開発に成功したのも創薬ベンチャーです。新薬の開発には多額の資金を要しますが、我が国の創薬ベンチャーエコシステムでは、欧米等と比較しても、必要な開発資金を円滑に確保しづらいのが現状です。

このような状況を受け、令和3年6月に閣議決定された「ワクチン開発・生産体制強化戦略」のもと、感染症のワクチン・治療薬に関連する技術の実用化開発を行う創薬ベンチャー企業を支援する目的で本事業が創設されました。さらに、令和4年10月には「[新しい資本主義のブランドデザイン及び実行計画]の実施についての総合経済対策の重点事項」において、本事業について「今後、支援対象を感染症関連以外で資金調達が困難な創薬分野にも広げる方向で、支援を強化する」旨が盛り込まれました。

本事業では、大規模な開発資金の供給源不足を解消するため、創薬に特化したハンズオンによる事業化サポートを行うベンチャーキャピタル(VC)を認定し、その認定したVC(以下「認定VC」という。)による出資を要件として、非臨床試験、第1相臨床試験、第2相臨床試験もしくは探索的臨床試験の開発段階にある創薬ベンチャーが実施する実用化開発を支援し、日本の創薬ベンチャーエコシステムの底上げを図ります。特に、創薬ベンチャーの十分な売上や成長を図るべく、日本に加えて海外市場での事業化を行う計画についても積極的に支援します。

プログラムスーパーバイザー(PS)



元 日本製薬工業協会
医薬品評価委員会
運営委員会幹事

稲垣 治

プログラムオフィサー(PO)



ガラス合同会社
代表

橋本 千香



公益財団法人
先進医薬研究振興財団
理事長

林 義治

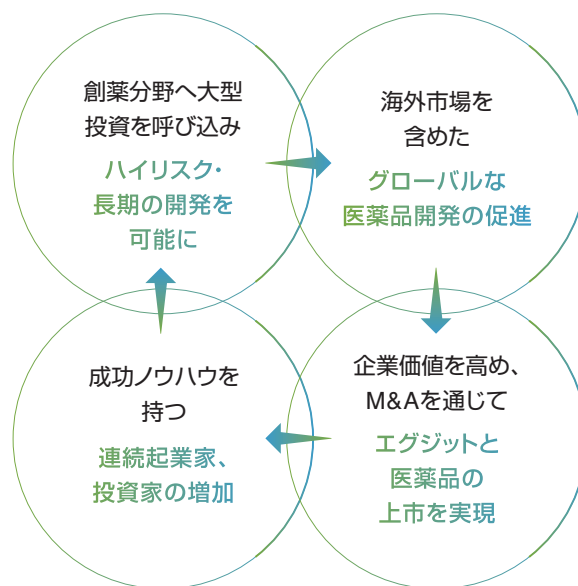


Newton Biocapital Partners
合同会社
最高薬事開発責任者

和田 道彦

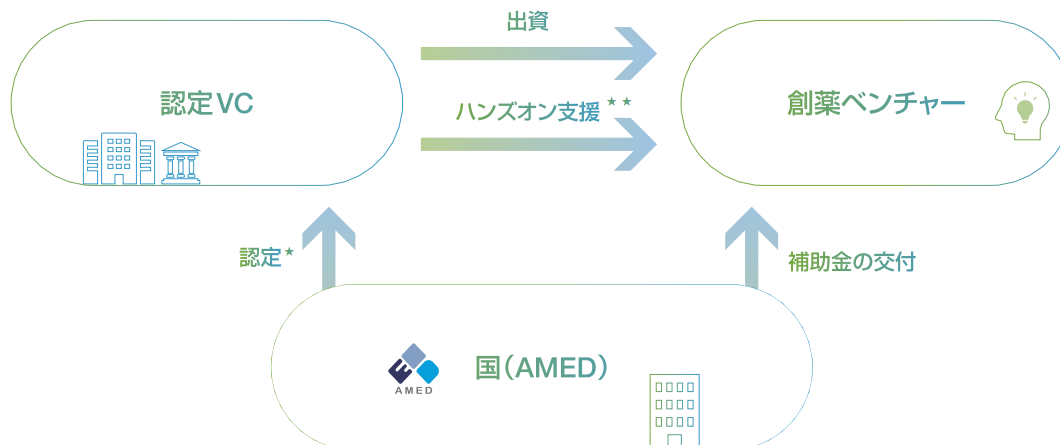
事業目標

日本における創薬ベンチャーエコシステムの強化のため、1つでも多くのグローバル基準の成功事例をつくることで、右図のような相乗効果による好循環をつくることを目標としております。



事業スキーム

本事業は、認定VCが補助対象経費の1/3以上を出資することを要件として、創薬ベンチャーが行う医薬品の実用化開発にAMEDが補助金を交付する事業です。本事業では、AMEDが認定するVCの公募(①VC公募)と、認定VCの出資を受ける創薬ベンチャーが行う医薬品の実用化開発課題の公募(②創薬ベンチャー公募)の、2段階の公募を行います。



★ 認定 創薬分野への出資や支援の実績などを持つVCを認定

★★ ハンズオン支援 創薬ベンチャーの成長段階に応じた、経営、開発・技術、薬事の観点での支援など

Contents

p. 03	ベンチャーキャピタルの認定
p. 04	認定ベンチャーキャピタル一覧
p. 05	認定ベンチャーキャピタル紹介

p. 15	創薬ベンチャー公募
p. 16	採択課題一覧
p. 17	採択課題紹介

ベンチャーキャピタルの認定

認定VCに求められること

- リード投資家として、支援ベンチャーに対して初回投資から補助事業終了までの間に10億円以上の投資を行うこと
- 補助事業期間中は一貫してリード投資家として支援ベンチャーを支援すること
本事業における「リード」の定義は、原則として本事業の対象期間中の出資額が最大の出資者であり、資金調達やハンズオンを主導する役割を果たす者としてします。

認定期間

- 認定日から2事業年度（最長で本事業が終了する事業年度末まで）
- 2事業年度ごとに更新評価を行って認定更新の可否を判断。更新回数の制限なし。

評価項目

- 事業目的との適合性 ■ 資金調達への対応力 ■ ソーシング能力 ■ ハンズオン能力

必須要件

- ① 直近5年間でVCとしての全投資金額のうち、1/3以上を創業分野に投資していること
(創業分野への出資を行うことに特化したファンドを保有している場合や、評価項目において、創業ベンチャーに対して特に質の高い支援が可能と評価された場合には、①を満たしていなくとも審査の対象とする。)
- ② リードVCとして、投資先の創業ベンチャーが行う治験を支援した実績があること
(VCまたはファンドを新規に設立した場合、②の要件については所属する個人^{※1}の過去の実績に鑑みて、審査の対象とすることがある。)
- ③ リードVCとして、投資先の創業ベンチャーに取締役を派遣した実績があること
(VCまたはファンドを新規に設立した場合、③の要件については所属する個人^{※1}の過去の実績に鑑みて、審査の対象とすることがある。)
- ④ 投資の意思決定を行うメンバー^{※2}または、ハンズオンを行うメンバーであり投資の意思決定に対し専門的な助言を行うメンバーに、製薬企業等において医薬品開発を行った経験（薬事・BD（事業開発）・開発企画等）を有する人材、または医薬品開発を進める上で重要な経験（PMDA、FDA等の機関における審査等）を有する人材がいること
- ⑤ 投資の意思決定を行うメンバー^{※2}または、ハンズオンを行うメンバーであり投資の意思決定に対し専門的な助言を行うメンバーに、グローバルでの医薬品開発に携わった経験（グローバルでの治験を行った経験、グローバルでの治験をハンズオン支援した経験等）を有する人材がいること

※1 投資の意思決定を行うメンバーまたは、ハンズオンを行うメンバーであり投資の意思決定に対し専門的な助言を行うメンバー

※2 ジェネラル・パートナー、パートナー等

今後の公募予定

年数回 定期的に実施予定

※最新の公募要領をご確認ください。

認定ベンチャーキャピタル一覧

(2025年8月現在)

認定ベンチャーキャピタル	ページ
4BIO Partners LLP	5
ANRI 株式会社	5
ANV Management, LLC	5
Astellas Venture Management LLC	6
Beyond Next Ventures 株式会社	6
Blackstone Life Sciences (Bxls)	6
Catalys Pacific, LLC	7
D3LLC (D3合同会社)	7
DBJ キャピタル株式会社	7
DCI パートナース株式会社	8
Eight Roads Ventures Japan (Eight Roads Capital Advisors Hong Kong Limited)	8
Eisai Innovation, Inc.	8
EQT Life Sciences	9
F-Prime Capital Partners (Impresa Management LLC)	9
JIC ベンチャー・グロース・インベストメンツ株式会社	9
MP Healthcare Venture Management, Inc. (MPH)	10
Newton Biocapital Partners	10
Remiges Ventures, Inc. / RDiscovery 株式会社	10
Saisei Ventures LLC	11
Taiho Ventures, LLC	11
大阪大学ベンチャーキャピタル株式会社	11
京都大学イノベーションキャピタル株式会社	12
株式会社慶應イノベーション・イニシアティブ	12
ジャフコグループ株式会社	12
大鵬イノベーションズ合同会社	13
株式会社東京大学エッジキャピタルパートナーズ	13
東京大学協創プラットフォーム開発株式会社	13
株式会社ファストトラックイニシアティブ	14
三菱UFJキャピタル株式会社	14
みやこキャピタル株式会社	14

4BIO Partners LLP



HP

連絡先 info"AT"4biocapital.com

HP https://www.4biocapital.com

4BIOキャピタル(「4BIO」)は、ロンドンに本社を置く国際的なベンチャーキャピタル企業で、先進的かつ新興の治療分野に特化しています。4BIOのチームは、先進治療分野で比類のないネットワークを持ち、トップクラスの先進治療科学者と経験豊富なライフサイエンス投資家で構成されています。

同社は英国、米国、ヨーロッパ、アジアにグローバルな拠点をもち、早期段階の企業を創出し、投資し、支援し、成長させることを目標としています。最終的な目標は、すべての患者が潜在的に治療効果のある療法にアクセスできるようにすることであり、特に精密医療における実行可能で高品質な機会に焦点を当てています。

4BIOのチームは、先進治療のトップ科学者と経験豊富なライフサイエンス投資家で構成されています。4BIOは、先進治療分野での広範なネットワークと、グローバルな事業成長を支える最適な投資機会を選ぶ能力を有しています。日本におけるステークホルダーとの強固な関係を活用し、日本発の科学技術をグローバルなビジネス機会につなげることを目指しています。(https://www.4biocapital.com/)



担当者



Philippe Fauchet



Kieran Mudryy



Dima Kuzmin

ANRI 株式会社



HP

連絡先 https://anri.vc/ja/contact

HP https://anri.vc/ja

ANRI 株式会社は、東京を拠点とするベンチャーキャピタルで、シードおよびアーリーステージ投資に豊富な実績を持ち、創業初期から一貫した伴走支援を行っています。革新的な創業に取り組むバイオテックベンチャーへの初期投資をはじめ、世界規模のインパクトが期待される DeepTech 領域への投資を重要な軸としています。特にANRIでは、チームビルディング、事業戦略、知的財産といった領域において、社内の知見に加え、多様な専門家ネットワークを活用した総合的な支援体制を構築しています。

本AMEDの助成事業を通じて、私たちは創業分野における研究開発および臨床開発の加速を目指し、日本の学術・研究コミュニティから生まれた先端技術の社会実装を支援し、革新的な治療ソリューションの創出を後押ししていきます。



担当者



宮崎 勇典



榎原 和洋



木下 美妃

ANV Management, LLC



HP

連絡先 info"AT"an.vc

HP https://an.vc/jp/

AN Venture Partners (ANベンチャーパートナーズ、ANV)は、東京とサンフランシスコを拠点とするベンチャー・キャピタルで、ライフサイエンス領域で投資を行っています。ANVは米国 ARCH Venture Partners とのアライアンスに加え、創業や投資活動で豊富な経験を有する日米のVC出身者により設立されました。日本には革新的なサイエンスのシーズが数多くあるものの、それを実用化するグローバル企業創出のためのエコシステムは未だ整っていません。ANVは日本が持つサイエンスのポテンシャルを最大限に発揮できるよう、日本と世界をつなぐVCとして設立されました。具体的には、日本の大学が持つ有望な研究に投資し、創業前やアーリーステージといった早期段階から米国での事業化を支援します。エコシステムがより成熟しており、人材が豊富で資本市場の規模が大きい米国で事業を展開することで、様々なシーズの社会実装をより効率的に実現します。最終的には、米ナスダックでの新規株式公開(IPO)や、グローバルな製薬会社等への売却を通じたエグジットを目指しています。



担当者



二見 崇史



ケン・ホーン



アリ・ノワチェック



橋本 淳



島田 淳司



伴 寿一

Astellas Venture Management LLC



HP

連絡先 tadayoshi.hirata"AT"astellas.com

HP <https://www.astellasventure.com/>

Astellas Venture Managementは、米国、日本に拠点を置くアステラス製薬株式会社のコーポレートベンチャーキャピタルで、患者さんに「価値」をもたらす最先端の科学の進歩を支援しています。投資対象は、治療プログラムや創薬プラットフォーム技術を開発するアーリーステージの未公開バイオテクノロジー企業です。投資実施後は、製薬業界での長年の経験に基づく「Pharma View」の提供及びメンバーの専門知識・経験・グローバルネットワークに基づくビジネス面での支援を行い、ポートフォリオ企業のイノベーションをより迅速に社会実装できるようにサポートしています。



担当者



平田 忠義



櫻井 渚



小長井 智史



三宅 進一

Beyond Next Ventures 株式会社



HP

連絡先 <https://beyondnextventures.com/jp/contact/>

HP <https://beyondnextventures.com/jp/>

私たちは、研究者や起業家と共に、革新的なサイエンス/テクノロジーの社会実装やエコシステムの強化を通じて、地球規模の社会課題の解決を目指す独立系ベンチャーキャピタルです。創薬バイオ領域に特化したキャピタリスト、アドバイザー、および広範な外部ネットワーク(提携CROを含む)が、経営チームの組成、事業戦略・知財戦略・提携戦略の立案・実行、国内外へのマーケティング、資金調達などを支援し、事業リスクの低減と事業価値の向上を図ります。また、東京・日本橋にシェア型ウェットラボ「Beyond BioLAB TOKYO」を開設し、ライフサイエンス領域の技術シーズに対する研究開発を支援しています。



担当者



澤邊 岳彦



矢藤 慶悟

Blackstone Life Sciences (Bxls)



HP

連絡先 [ipressinquiries"AT"blackstone.com](mailto:ipressinquiries@blackstone.com)

HP <https://www.blackstone.com/jp/life-sciences/>

Blackstoneは世界最大のオルタナティブ資産運用会社であり、投資先企業へ包括的な支援を提供し、長期的な成長を実現いただきます。

Blackstone Life Sciences(Bxls)は、革新的な医薬品や医療技術の臨床開発に資金を提供することに注力しており、新薬の臨床試験設計や資金提供、実行支援を提供することで、重要な医薬品や医療技術を市場に届けることを目標としています。

また、臨床、上市、上市後の運営面における知見を、Blackstone全体グローバルネットワークや経営インフラと組み合わせ提供することが可能です。Bxlsは、素晴らしい技術を持ったライフサイエンス製品や企業の発見、資金提供、成長に向けた実務レベルでの直接/間接的な支援、専門性/知見を活用して投資先の支援に取り組んでいきます。



担当者



アリ・ブレットマン



ピーター・レネハン

Catalys Pacific, LLC	 HP	 CATALYS PACIFIC 担当者  高橋 健  永田 愛望
連絡先 info"AT"catalyspacific.com HP https://catalyspacific.com/ja		
Catalys Pacificは、ライフサイエンス分野におけるアリーステージの投資に重点を置く独立系ベンチャーキャピタルです。当社のミッションは、革新的なヘルスケアソリューションの提供を通じて、世界中の患者さんの生活を向上させるとともに、ヘルスケアとライフサイエンスの発展に貢献することです。2019年に設立された当社は、日米を拠点とした信頼されるパートナーとして、新たなバイオテック企業の創出や国境を越えたパートナーシップを通じ、そのミッションを追求して参ります。当社は、東京(日本)とシアトル(ワシントン州)を拠点に事業運営しております。Catalys Pacificの詳細についてはHPをご参照ください。		
D3LLC (D3合同会社)	 HP	 D3 LLC Discovery Development Deployment 担当者  永田 智也  綿谷 健治  長谷部 靖明
連絡先 info"AT"d3growth.com HP https://www.d3growth.com/jp		
D3LLCは、「日本発・世界の医療健康に貢献」をパーパスに、バイオ・ヘルスケア領域のイノベーションに特化している、ベンチャーキャピタル(VC)です。日本の可能性を信じ、グローバルスタンダードのバイオ・ヘルスケア VCの投資・育成を日本から行います。サイエンス・ビジネス双方の経験のあるプロフェッショナルが、少数の投資先に対して丁寧なハンズオン支援を行っています。創業に限らず、手段を問わず、幅広く世界の医療健康に貢献する研究/技術シーズ・アイデアを投資スコープとしています。資金提供のみならず、開発(Development)と社会実装(Deployment)をご支援・協働させていただきます。起業前、もしくは、資金調達活動開始前からの相談も歓迎いたします。投資検討に入る前、もしくは事業計画が固まり切る前に、そもそもの事業の方向性の意見交換ができること、また、それらを通じての相互の理解・信頼感が醸成されていることは、双方にとって結果的によい第一歩になるかと考えています。Note: https://note.com/d3llc/		
DBJキャピタル株式会社	 HP	 DBJ DBJキャピタル株式会社 日本政策投資銀行グループ 担当者  三ツ口 尚志  安田 順信
連絡先 https://www.dbj-cap.jp/contact/ HP https://www.dbj-cap.jp/		
DBJキャピタルは、日本政策投資銀行(DBJ)のベンチャーキャピタルとして幅広い業種に対し投資を行っています。ライフサイエンス分野は注力分野の一つであり、当該分野での事業経験／投資経験が豊富なキャピタリストを擁し、ファンド全体の約3割を当該分野に投資しています。ハンズオン活動としては、資金調達・経営管理・人材採用・研究開発・臨床開発・事業開発等の支援に注力しており、DBJの顧客基盤を活かした大企業や国内外のライフサイエンスVCとの提携支援等に特徴を有しています。詳細は、HPをご覧ください。		

※連絡先は"AT"の部分を@に変えてください。

DCIパートナーズ株式会社



HP

連絡先 dcip_info"AT"daiwa.co.jp

HP <https://www.daiwa-inv.co.jp/dcip/>

私達は、NIF(現大和企業投資)時代を通じて、20年以上バイオ分野への投資を行ってまいりました。現在も特化型VCとして、国内最大の資金を運用し、将来の産業を担う成長企業へリスクマネーを供給しています。臨床開発・知財・事業開発等の知見と共に、研究機関・創薬ベンチャー・製薬会社等とのネットワークを通じ、ハンズオン支援を行い、日本のみならず、台湾とも連携することで、投資先企業のもつ可能性を広げていきます。サイエンスとビジネスの距離が最も近い、創薬分野において、シーズがもつ可能性を最大限に活かすため、企業としての機能が揃うことを待つことなく、ファンド主導でベンチャーを設立する投資も行っています。かつての不治の病も、先人が開発した薬で治療ができるようになりました。私達は、新薬は次の世代に残せる大切な資産のひとつだと考えています。私達は、創薬ベンチャーへの投資を通じ、金融資産を有効活用し、人類の健康に貢献できるよう取り組んでまいります。

DCIパートナーズ

DCI Partners

担当者



横田 淳一



田中 翔真



新見 祐加

Eight Roads Ventures Japan

(Eight Roads Capital Advisors Hong Kong Limited)



HP

連絡先 admin"AT"eightroads.com

HP <https://eightroads.com/ja/>

米資産運用大手Fidelityグループの資金を活用し、アンメットメディカルニーズ、社会課題を解決するサイエンス・技術を評価して投資実行。会社設立、創業初期から成長後期まで幅広いステージのスタートアップに投資。姉妹ファンド米国F-Prime Capital Partnersとの共同投資を通じて日本スタートアップのグローバル展開をハンズオンで支援。

8° EIGHT ROADS™

担当者



香本 慎一郎



芦田 広樹

Eisai Innovation, Inc.



HP

連絡先 info"AT"eisaiinnovation.com

HP <https://www.eisaiinnovation.com/>

Eisai Innovation, Inc. はエーザイ株式会社のコーポレートベンチャーキャピタルとして、神経、がん領域、グローバルヘルスを対象としたグローバルな投資活動を行っています。医薬品の研究開発における豊富な経験と合わせ、投資・事業開発の経験を有するプロフェッショナルなメンバーが在籍しています。ベンチャー企業の創業にかける思いに寄り添いながら、メンバーの経験に基づいて、医薬品開発の戦略立案の支援を行っています。



担当者



水井 佳治



安達 竜太郎

EQT Life Sciences		 HP	
連絡先 dealflow"AT"eqtpartners.com	HP https://eqtgroup.com/private-capital/eqt-life-sciences	担当者   Fouad Azzam Vincent Brichard  Laurenz Govaerts	
EQT Life Sciencesは、グローバルな投資会社であるEQT Groupの一部で、未上場かつ初期段階のライフサイエンス企業への投資を目指しています。30年以上の経験を有するEQT Life Sciencesは、これまでに€3.5 billionを調達し、100社を超える非上場企業に投資してきました。アムステルダム、ボストン、ミュンヘンに拠点を置く投資チームは、患者の生活に変革をもたらす得る高度に革新的な技術への投資機会を積極的に発掘しています。			

F-Prime Capital Partners (Impresa Management LLC)		 HP	F・PRIME
連絡先 admin"AT"eightroads.com	HP https://fprimecapital.com/	担当者   香本 慎一郎 芦田 広樹   ロバート ウェイスコフ ブライアン ヨーディ	
米国を拠点に、日・欧・中・印を含むグローバルで創業ベンチャーへの投資およびハンズオン支援で20年以上の実績あり。米資産運用大手Fidelityグループの資金を活用し、アンメットメディカルニーズ、社会課題を解決するサイエンス・技術を評価して投資実行。会社設立、創業初期から成長後期まで幅広いステージのスタートアップに投資。姉妹ファンドEight Roads Venture Japanと提携し日本でも積極的に投資活動中			

JIC ベンチャー・グロース・インベストメンツ株式会社		 HP	
連絡先 info_lifescience"AT"j-vgi.co.jp	HP https://www.j-vgi.co.jp/	担当者   宇留野 義治 鈴木 はな絵   都竹 拓磨 後藤 貴浩	
JIC ベンチャー・グロース・インベストメンツ株式会社(JIC VGI)は、株式会社産業革新投資機構(JIC)グループのベンチャーキャピタルとして、ベンチャー投資を通じて産業及び社会課題の解決と日本の国際競争力の強化に寄与するべく活動を行っています。特に、ライフサイエンス分野においては、アーリーステージからレイターステージまでの幅広いステージを対象としていること、ベンチャーキャピタル、製薬企業、政府機関等との国内外の様々なプレイヤーとのネットワークを有していることが特徴です。創業ベンチャーエコシステム強化事業では、創業ベンチャーの大きな成功事例を生み出すことで、ベンチャーエコシステムの強化と日本発の新薬創出に貢献できればと考えております。			

※ 連絡先は"AT"の部分を実際に@に変えてください。

MP Healthcare Venture Management, Inc. (MPH)



HP

連絡先 <https://www.mp-healthcare.com/contact> | HP <https://www.mp-healthcare.com/>

当社はボストンに拠点を置く田辺三菱製薬のコーポレートベンチャーキャピタルとして、ヘルスケアの起業家と協力し、新しい技術と治療法の開発を支援しています。主に北米・欧州および日本に拠点を置き、最新のサイエンスに基づく新規治療薬、プラットフォーム技術を開発しているシードおよび初期段階のバイオテクノロジー企業に投資します。現在の注目疾患領域は神経変性疾患、免疫疾患、ガン、希少疾患です。これまでの投資実績など詳細はHPをご参照ください。

MP Healthcare Venture Management, Inc.

担当者



小沢 将太



Jeffrey Moore

Newton Biocapital Partners



HP

連絡先 <https://newtonbiocapital.com/ja/contact> | HP <https://newtonbiocapital.com/ja/>

Newton Biocapital Partners(以下「NBC」)は、ベルギーと日本にオフィスを構える、欧州と日本におけるライフサイエンス分野で前臨床および臨床段階のアーリーステージ企業に投資するベンチャーキャピタルファンドです。NBCは患者様や社会の負担軽減に焦点を当て、慢性疾患の治療にイノベーションを活用することを戦略として掲げており、化学、産業、ベンチャーキャピタルの専門分野において、豊富な経験と幅広い知識を有するチームメンバーがそれぞれの学識と経験、ネットワークを活用し、患者様のQOL向上につながる革新的なソリューションを開発するプロジェクトの支援をします。



NEWTON
BIOCAPITAL

担当者



鈴木 貞史



和田 道彦



淵上 欣司

Remiges Ventures, Inc. / RDiscovery株式会社



HP

連絡先 info@ATremigesventures.com | HP <https://remigesventures.com/ja/>

当社は日米拠点に在籍する投資チームが運営するベンチャーキャピタルで、創業ベンチャーへの投資・支援を行っています。全疾患領域・全モダリティを投資対象とし、先進的な医薬品開発を行うアーリーステージ(Seed～Series A/B)の創業ベンチャー企業に投資を行っています。更には大学等の技術に基づくVC主導の起業も行っています。投資に際しては、主にリード投資家として出資・支援を行い、取締役会への参加を通じて、事業戦略の立案や外部提携、EXIT活動を含む広範な経営関与を行っています。また、投資後の価値向上のため、経営人材採用による経営チームの強化、知財の精査に基づく強化、開発戦略や治験デザインにおけるインプット、新規投資家の招聘を含む資金調達活動や外部アドバイザーの紹介などの各施策を実施します。投資先が必要としている技術や科学的知見、外注サービスへのアクセスを支援し、事業開発を助けることで医薬品開発における直接的な付加価値提供を行います。

REMIGES
VENTURES

担当者



松本 京子

Saisei Ventures LLC		 HP	
連絡先 info"AT"saiseiventures.com	HP https://www.saiseiventures.com/ja/	担当者   齊藤 光 ジョナサン イェ  スヴェン キリ	
Saisei Ventures LLC(サイセイベンチャーズ)は、ヘルスケア分野における次世代企業の育成を目指すベンチャーキャピタルです。大胆なアイデアを起点としたベンチャー企業を創出し、技術的、経営的、財務的なガイダンスを提供することで、熱意ある起業家を支援します。グローバルな専門知識と日本のイノベーションを融合させるというアプローチで、人々の健康と生活に大きなインパクトをもたらす、国際競争力のある企業を構築することを目指しています。日本と米国で事業を展開し、独自のネットワークと両国の制度的優位性を活用することによって、ポートフォリオ企業の価値向上に努めています。詳細は https://www.saiseiventures.com/ をご覧ください。			

Taiho Ventures, LLC		 HP	
連絡先 info"AT"taihoventures.com	HP https://taihoventures.com/	担当者   浅沼 栄 石井 孝明	
Taiho Ventures(大鵬ベンチャーズ)は、がん、免疫関連疾患を重点領域とする日本のスペシャリティファーマである大鵬薬品のコーポレートベンチャーキャピタルです。低分子医薬品から細胞療法を含むバイオ医薬品まで様々なモダリティを対象とし、重点領域におけるアーリーステージの未上場企業に積極的に投資をしています。資金面での支援のみならず、研究開発や経営などの経験を生かし、投資先の最先端の技術や治療法を社会に届けることに注力しています。純粋な株式投資だけでなく、会社設立、スピンアウト、オプションタイプの投資も検討しています。			

大阪大学ベンチャーキャピタル株式会社		 HP	
連絡先 info"AT"ouvc.co.jp	HP https://www.ouvc.co.jp/	担当者   魚谷 晃 上平 昌弘	
大阪大学ベンチャーキャピタル株式会社(OUVC)は、大阪大学のみならず他の国立大学から生まれた優れた研究成果を活用したベンチャー企業を起業から支援するベンチャーキャピタルです。これまでは主に医療・創薬分野への投資に重点を置き、起業からEXIT支援まで幅広いサポート実績を築いてきました。近年では、CxO人材の発掘や、大阪大学100%出資の投資事業会社としての強みを活かし、大阪大学医学部附属病院(未来医療開発部未来医療センター)と連携し、規制当局への対応を含む専門的なハンズオン支援に注力しています。国立大学を中心とした起業準備が整っていない研究者の方々からの相談にも対応できる体制を整えております。詳細情報やお問い合わせ先についてはHPをご確認ください。			

※連絡先は"AT"の部分をも@に変えてください。

京都大学イノベーションキャピタル株式会社



HP

連絡先

ueno.hiroyuki"AT"kyoto-unicap.co.jp
https://www.kyoto-unicap.co.jp/contact/

HP

https://www.kyoto-unicap.co.jp/

京都大学イノベーションキャピタル株式会社は、京都大学および国立大学の研究成果を活用した次世代を担う産業の創造に、投資活動を通じて貢献するために、京都大学の100%出資子会社として設立されたベンチャーキャピタルです。これまでに、大学の革新的な研究成果の実用化を進める様々な創業ベンチャーを支援しています。「創業ベンチャーエコシステム強化事業」では、ベンチャーキャピタルの立場から、新たなワクチンや治療薬の創出を目指す企業の研究開発・事業開発の推進を支援したいと考えます。

KYOTO-iCAP
KYOTO UNIVERSITY INNOVATION CAPITAL Co.,Ltd.

担当者



上野 博之



八木 信宏



河野 修己

辻村 剛志

横尾 浩司

株式会社慶應イノベーション・イニシアティブ



HP

連絡先

hongo"AT"keio-innovation.co.jp

HP

https://www.keio-innovation.co.jp/

株式会社慶應イノベーション・イニシアティブ(KII)は、「その研究が、その発明が、そのイノベーションが、社会を変えるまで。」をミッションに、慶應義塾大学のみならず日本が誇る大学や研究機関等から生まれたディープテックに投資し社会実装をハンズオン支援・推進します。特に本事業においては、創業シーズの育成から臨床試験までの様々なステージ段階にあるスタートアップに投資し、国内外での臨床開発及び事業開発の推進を支援します。

KII KEIO
INNOVATION
INITIATIVE

担当者



本郷 有克

ジャフコ グループ株式会社



HP

連絡先

https://jafco.co.jp/contact/

HP

https://jafco.co.jp/

ジャフコは起業家の志を理解して深く共感し、シード／アーリーを中心とした数億円規模の初回投資に加え、その後の事業実現に向けた継続的な資金調達も支援しています。ジャフコのライフサイエンスチームは、創薬・医療機器・ヘルスケア等の領域における高い専門性を有するキャピタリストを擁し、特にアンメットニーズが残る患者さんに新しい治療法を届けるべく、集中的なリスクマネーの供給と投資先への強いコミットメントを実践しています。さらに、日本発の科学技術を世界の患者さんへ広げることを目指し、「CO-FOUNDER」の視点でカンパニークリエーションにも積極的に取り組んでいます。

JAFCO

担当者



北澤 知丈



三浦 研吾



小林 泰良



石元 悠樹



上野 傑

※連絡先は"AT"の部分をも@に変えてください。

大鵬イノベーションズ合同会社	 HP	 TAIHO INNOVATIONS 担当者  下村 俊泰  森 文隆  宮腰 均  前田 政敏
連絡先 https://www.taihoinnovations.com/contact/ HP https://www.taihoinnovations.com/		
大鵬イノベーションズは、がん、免疫関連疾患を重点領域とする日本のスペシャリティファーマである大鵬薬品のコーポレートベンチャーキャピタルです。革新的な創薬シーズ、創薬基盤技術およびコンシューマーヘルスケアのシーズを持つ日本のアーリーステージのバイオベンチャーへの投資に加え、アカデミアの有望なシーズ・基盤技術を対象にその社会実装のためのインキュベーション事業を行っています。大鵬イノベーションズは海外での投資業務や医薬品研究開発の経験を持つメンバーで構成されており、資金面のみならず、海外進出を含めた事業面でも幅広くハンズオン支援を行えるのが特徴です。		
株式会社東京大学エッジキャピタルパートナーズ	 HP	 UTEC 担当者  宇佐美 篤  塩原 梓
連絡先 utec-kanri@ut-ec.co.jp HP https://www.ut-ec.co.jp/		
UTECは、2004年4月の創業以来、起業家・研究者らとともに、グローバルな市場における世界・人類の課題に挑戦するスタートアップへの投資を数多く行ってきました。創薬領域においては、新規治療法が待たれている疾患領域を対象に、ペプチド、核酸、細胞遺伝子、低分子など幅広いモダリティの創薬シーズや創薬基盤技術をもつスタートアップへの投資を行っています。ライフサイエンス・創薬の高い専門性をもつメンバーが、研究開発・臨床開発・薬事規制対応・事業開発・経営/経営管理等の観点で、幅広い経験やネットワークを活用しながら、創業企業の国内外での事業成長に貢献いたします。		
東京大学協創プラットフォーム開発株式会社	 HP	 東大IPC Innovation Platform for The University of Tokyo 担当者  大堀 誠  備後 充博
連絡先 https://www.utokyo-ipc.co.jp/contact/ HP https://www.utokyo-ipc.co.jp/		
東京大学協創プラットフォーム開発株式会社(東大IPC)は、東京大学100%出資の投資事業会社として、東京大学を中心とした大学等の成果を活用するベンチャー企業案件への投資を行っています。米国・日本での創薬投資、事業開発、Exit経験展開豊富なキャピタリストによる積極的なハンズオン支援を展開しております。本公募においては、前臨床から治験第2相の、革新的な技術開発を行う創業ベンチャー様のコンタクトを歓迎します。		

※連絡先は"AT"の部分を@に変えてください。

株式会社ファストトラックイニシアティブ



HP

連絡先 <https://www.fti-jp.com/contact/form/>

HP <http://www.fti-jp.com>

ファストトラックイニシアティブは、医療・ヘルスケアに特化した独立系VCとして、創業シーズに対するスタートアップ創業前のインキュベーション段階から投資、実用化に至るまで、広範な実績を有しております。日本の創業シーズから世界にはばたくバイオテック企業を創出し、患者様に最短最速で医薬品を届けるべく、日本、および米ボストンの両拠点から創業・投資経験の豊富なメンバーによる質の高いご支援を提供いたします。詳細はHPをご覧ください。

FTI
FAST TRACK INITIATIVE

担当者



桐谷 啓太

三菱UFJキャピタル株式会社



HP

連絡先 [ninteivc"AT"mucap.co.jp](mailto:ninteivc)

HP <https://www.mucap.co.jp/>

三菱UFJキャピタルは三菱UFJフィナンシャル・グループのベンチャーキャピタルとして幅広い業種に対する投資を行っています。ライフサイエンス分野においては、2017年2月の1号ファンド以降、「三菱UFJライフサイエンス4号ファンド」(200億円)を含め計500億円と継続的にファンドを設立しています。私たちのライフサイエンスファンドは、日本でも創業のエコシステムを円滑に構築することを戦略として掲げています。具体的には、ベンチャー企業へのフォロー投資だけでなく、①大学発のベンチャー企業(アカデミア創業)への投資、②製薬会社から切り出された特定技術・疾患領域に特化したベンチャー企業(カープアウト)、③アカデミアと製薬会社間でのオープンイノベーション案件への投資といった、創業シーズの育成から臨床開発までの様々なステージを支援し、医薬品開発の促進につなげたいと考えています。製薬出身であるキャピタリストが複数在籍しており、製薬での創業プロセスや疾患領域を広くカバーしております。また、知的財産、非臨床試験、医薬品製造、臨床開発戦略、医療ニーズを相談できる専門企業・組織とそれぞれ包括的な契約を締結しており、投資前から相談できる体制を整えております。

MUFG

三菱UFJキャピタル

担当者



長谷川 宏之



篠崎 幹彦



垣内 礼仁

三横 伸弘

井澤 洋介

久保 裕生

みやこキャピタル株式会社



HP

連絡先 [info"AT"miyakocapital.com](mailto:info)

HP <https://miyakocapital.com/>

SDGs に資する、シードからアーリーを中心としながら、ミドル、レイター段階に至る全てのステージにある、京都大学をはじめとするアカデミア・研究機関の先端的な知的資産を利活用する技術開発型のスタートアップ企業への投資を行うとともに、テクノロジーの社会実装に繋がる産学連携活動などの成長支援を通じて、次世代の有力産業・イノベーション創出を目指します。各企業様における実情・ニーズに応じ、アカデミア・研究機関との実効的な産学連携方を講じて継続的に支援します。また、メンバー全員が日本・米国など海外におけるVC投資に加え、創業・スタートアップ企業の経営に関する豊富な経験を有しているため、徹底した実務面のハンズオン支援を補完的に実施します。今回、特に創業スタートアップについては、製薬企業出身者のチャレンジも積極的に応援し、創業スタートアップエコシステムのアップデートに貢献したいと考えております。

MIYAKO
CAPITAL

担当者



三澤 宏之



大谷 敬亨



田宮 大雅

※連絡先は"AT"の部分をも@に変えてください。

創薬ベンチャー公募

公募対象

分野	補助対象経費の規模 (間接経費および認定VC出資分含む)	補助事業期間
#1 感染症のワクチン・治療薬の開発のための革新的な技術開発	1 課題当たり総額100億円まで (上限を超える提案も可能)	最長令和13年9月まで (課題ごとに設定)
#2 感染症以外の疾患に対する医薬品等の開発のための革新的な技術開発	AMEDは補助対象経費の 2/3を上限に補助金を交付	

- 認定VC(リードを必ず含むこと) から補助対象経費の 1/3 以上の金額の出資を受けていること、または、今後出資を受けることが決定していることが必要です。
- 非臨床試験、第1相臨床試験、第2相臨床試験もしくは探索的臨床試験の開発段階にある、1つのパイプラインの開発を支援します。
- 「医薬品等」には医薬品および再生医療等製品が含まれます。
- 開発候補品に関して国内および海外に特許を出願していることが必要です。ただし、戦略上の理由で応募時に申請していない場合は、その戦略(開発戦略、知財戦略、事業戦略、薬事戦略等)の詳細を提案書に記載してください。
- 最終開発候補品が定まっていない場合、最終開発候補品を決定するための非臨床試験を行う提案も受け付けます。
- 補助事業期間について、補助事業計画書で設定する全てのステージゲート評価を通過することを前提に、最長令和13年9月まで補助事業を実施することができます。

本事業での達成目標(ゴール)

- 第2相臨床試験・探索的臨床試験の終了(POCの取得)
- 補助事業期間の途中でIPO、M&Aを行った場合は原則として早期終了

審査項目

- 事業趣旨との整合性
- 技術の優位性・有効性など
- 開発目標・開発計画
- 事業計画(ビジネスプラン)
- 認定VCによる支援計画

今後の公募予定

年数回 定期的に実施予定

※最新の公募要領をご確認ください。

採 択 課 題 一 覧

(2025年8月現在)

採択年度	研究開発課題名	研究開発代表機関	ページ
2022年度	病原性CUGリピートRNAを標的とする塩基配列特異的RNA結合蛋白質による筋強直性ジストフィー1型に対する革新的治療薬の開発	エディットフォース株式会社	17
2023年度	下行性疼痛抑制経路を活性化する経口鎮痛薬ENDOPINの開発	合同会社BTB創薬研究センター	17
2023年度	ヒトiPS細胞由来心筋細胞製剤OZTx-556の重症心不全患者を対象としたグローバル治験によるProof of Concept (PoC) 検証	オリヅルセラピューティクス株式会社	18
2023年度	視覚再生遺伝子治療薬のグローバル第2相臨床試験におけるPOC取得	株式会社レストアビジョン	18
2023年度	K _{ATP} チャンネル阻害作用を有する低分子アルツハイマー型認知症治療薬NTX-083の開発	Neusignal Therapeutics 株式会社	19
2023年度	ミトコンドリア置換自己T細胞製剤によるがん治療薬の研究開発	イメル創薬株式会社	19
2023年度	GPC3発現固形がんを対象とした低免疫原性同種iPS細胞由来細胞傷害性T細胞療法の開発	シノビ・セラピューティクス株式会社	20
2023年度	治療抵抗性転移再発HER2陰性乳癌に対する新規治療法の開発	ペリオセラピア株式会社	20
2023年度	腫瘍内のM2様マクロファージに選択的なナノ粒子ドラッグデリバリーシステムに搭載したTLR刺激薬による新規がん免疫療法の開発	ユナイテッド・イムニティ株式会社	21
2024年度	ヒト脂肪細胞由来血小板様細胞(ASCL-PLC)の難治皮膚潰瘍治療に対する他家(同種)再生医療等製品としての開発	株式会社AdipoSeeds	21
2024年度	低活動膀胱を対象とした低分子医薬品SFG-02の開発	Juro Sciences 株式会社	22
2024年度	新規経口脂質代謝制御剤PRD001の脂質代謝異常症に対するPOC取得	PRD Therapeutics 株式会社	22
2024年度	多発性硬化症に対する新規LAT1阻害剤の開発	ジェイファーマ株式会社	23
2024年度	GD2陽性の難治性固形癌に対するGITRLを組み込んだ自家由来の新規CAR-T細胞療法の研究開発	ティーセルヌーヴォー株式会社	23
2024年度	先天性無歯症患者の欠如歯を再生する新規抗体医薬品の開発	トレジェムバイオフーマ株式会社	24
2024年度	潰瘍性大腸炎治療薬MGT-006の開発	メタジェンセラピューティクス株式会社	24
2024年度	全身性強皮症に伴う難治性皮膚潰瘍に対する血管内皮幹細胞を用いた新規細胞治療薬の開発	リバスキュラーバイオ株式会社	25
2024年度	小児希少血液疾患に対する新規ex vivo増幅造血幹細胞治療製品の開発	セレイドセラピューティクス株式会社	25
2024年度	自己免疫性疾患等に対する抗原特異的な免疫細胞療法の開発	レグセル株式会社	26
2024年度	免疫療法抵抗性固形がんのための腫瘍組織特異的pH応答性IL-12内包高分子ミセルの開発	Red Arrow Therapeutics 株式会社	26
2024年度	神経変性疾患の治療を目的とした新規遺伝子治療薬の開発	reverSASP Therapeutics 株式会社	27
2024年度	自己免疫疾患を対象としたCD19CAR導入低免疫原性同種iPS細胞由来ナチュラルキラー細胞療法の開発	シノビ・セラピューティクス株式会社	27
2024年度	低分子化合物GXV-001の脆弱X症候群を対象としたグローバル臨床第2a相POC試験	株式会社ジェクスヴァル	28
2024年度	重篤な遺伝子疾患に対する、mRNAを使用したGene Writingによる遺伝子治療パイプラインの開発	タイプライターTX合同会社	28
2024年度	アミノ酸トランスポーターのロッキング阻害による革新的な新規抗がん剤の開発	Atransen Pharma 株式会社	29
2024年度	膀胱癌、膵癌、胃癌、大腸癌を含むルミナル癌治療を目的としたファーストインクラス経口型低分子薬の研究開発	CORE Biomedicine Japan 合同会社	29
2024年度	再発性腫瘍腫瘍細胞及び腫瘍微小環境を標的とする抗FAPa CAR-T細胞の開発	オブティラム・バイオテクノロジーズ株式会社	30
2024年度	固形がんを高発現するGPCRを標的とした抗体・薬物複合体(ADC)による新規がん治療薬の開発	リベロセラ株式会社	30
2025年度	緑膿菌肺感染症に対するバクテリオファージカクテルARW001の開発	株式会社Arrowsmith	31
2025年度	CD19/CD20陽性の再発・難治性B細胞リンパ腫に対する二重特異性他家CAR-T細胞療法の臨床開発	AvenCell Japan 株式会社	31
2025年度	CRISPR-Cas3ゲノム編集技術を用いた原発性免疫不全症に対する造血幹細胞移植治療法の開発	C4U 株式会社	32
2025年度	新規メカニズムを用いたフェロトーシス誘導性抗がん剤の開発	株式会社FerroptoCure	32

2022年度(令和4年度)採択課題

研究開発代表者

取締役CSO
中西 理研究開発
課題名

病原性CUGリピートRNAを標的とする塩基配列特異的RNA結合蛋白質 による筋強直性ジストロフィー1型に対する革新的治療薬の開発

研究開発代表機関

エディットフォース株式会社
代表取締役社長 CEO 小野 高



リード認定VC

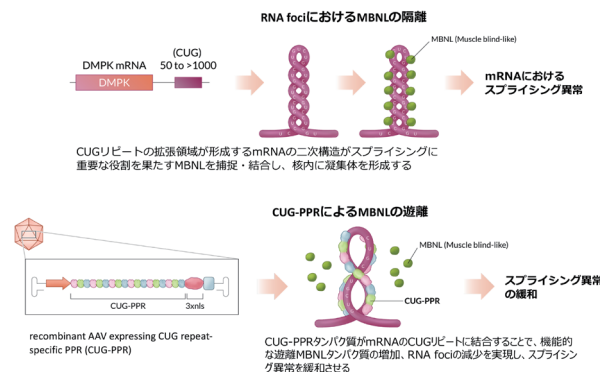
Newton Biocapital Partners

課題概要

私たちは、植物由来のPPR(Pentatricopeptide Repeat)モチーフを活用し、標的RNA配列に特異的に結合する人工タンパク質を設計・開発する独自技術を保有しています。本技術を応用し、治療法のない難治性遺伝疾患・筋強直性ジストロフィー1型(DM1)の原因であるCUGリピートRNAの病原性を抑制する根本治療薬の開発を進めています。疾患モデルマウスでは、PPRタンパク質を発現するAAVベクターのたった一回の投与により症状の大幅な改善と長期効果を確認しており、現在は2026年のIND申請を目指し、安全性評価と製造プロセスの整備を進行中です。本技術は革新的なRNA標的型治療として、他の疾患への応用も期待されています。

PPRタンパク質によるDM1治療

- 筋強直性ジストロフィー1型(DM1)は、筋機能に必要なスプライシング因子のCUGリピートによる隔離に起因する異常なスプライシングによって引き起こされる
- CUG-リピート特異的PPRタンパク質を送達することで、スプライシング因子を復旧し、筋機能を改善する



連絡先 <https://www.editforce.co.jp/contact/>

HP <https://www.editforce.co.jp/>



2023年度(令和5年度)採択課題

研究開発代表者

研究開発本部 本部長
大菊 鋼研究開発
課題名

下行性疼痛抑制経路を活性化する経口鎮痛薬 ENDOPIN の開発

研究開発代表機関

合同会社 BTB 創薬研究センター
CEO KIYOIZUMI Takashi

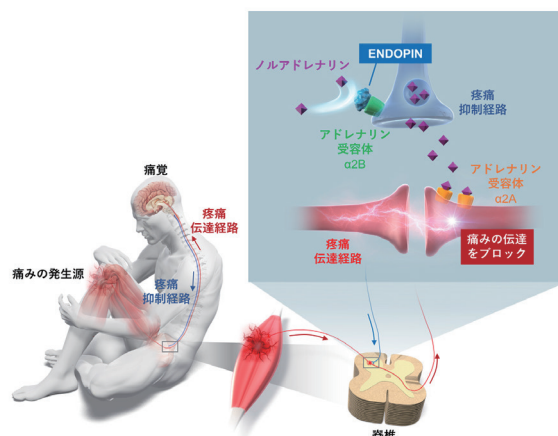


リード認定VC

京都大学
イノベーションキャピタル株式会社

課題概要

ENDOPINは、京都大学オリジナル化合物ライブラリーから発見された全く新しい作用機序の経口鎮痛薬候補化合物です。アドレナリン受容体 $\alpha 2B$ 選択的阻害剤であるENDOPINは、 $\alpha 2B$ 阻害によるネガティブフィードバックによって脳脊髄液中へのノルアドレナリン分泌を亢進させ、下行性疼痛抑制経路を人為的に活性化することで鎮痛作用を示します。モルヒネに匹敵する強力な鎮痛作用を示す一方で、薬効用量の100倍以上投与しても、モルヒネなどオピオイド鎮痛薬投与時に見られるような中枢神経系への影響や呼吸抑制・消化器症状等は認められていません。それゆえ、ENDOPINは、オピオイド鎮痛薬に代わって術後疼痛やがん性疼痛に対する第一選択薬となり、オピオイド鎮痛薬乱用によって欧米で深刻化する、オピオイドクライシスを解決する画期的な疼痛抑制薬となる可能性があります。本補助事業では、米国市場への展開を視野に入れ、米国において第II相臨床試験を実施し、臨床POC取得を目指します。



連絡先 contact@btbtherapeutics.com

※ "AT" の部分を@に変えてください。

HP <https://www.btbtherapeutics.com/ja/>





心筋細胞治療事業部
事業部長
西本 誠之

研究開発
課題名

ヒトiPS細胞由来心筋細胞製剤OZTx-556の重症心不全患者を対象とした グローバル治験によるProof of Concept(PoC)検証

研究開発代表機関

オリヅルセラピューティクス株式会社
代表取締役社長 兼 最高経営責任者 野中 健史



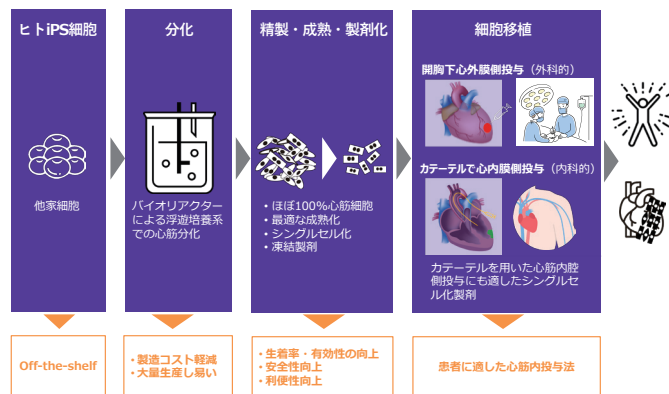
リード認定VC

京都大学
イノベーションキャピタル株式会社

課題概要

重症慢性心不全の多くは薬物治療抵抗性であり、これらの患者にとって心臓移植が唯一の治療法とされています。私たちは、ヒトiPS細胞から高生着性・高純度の心筋細胞「OZTx-556」を効率的に作製する新技術を開発しました。この細胞は心筋梗塞モデル動物への移植実験で優れた生着と心機能の回復効果を示しています。しかし実際の治療には数億個もの細胞移植が必要と予想され、そのために低コストかつ大量に高品質な細胞を製造する技術の確立が不可欠です。本補助事業では、商用スケールを見据えた浮遊培養による安価で効率的な大量製造プロセスの開発を進めます。加えて、患者への身体的負担を最小限に抑える新たなカテーテル投与法の開発にも取り組み、従来の開胸下投与と比較し、最適な投与手段を選択します。最終目標は、これらの技術によってグローバル

な臨床試験における治療効果の証明(PoC)を達成し、多くの患者へ本治療を届けることです。



連絡先 <https://orizuru-therapeutics.com/contact/>

HP <https://orizuru-therapeutics.com>



代表取締役CEO
堅田 侑作

研究開発
課題名

視覚再生遺伝子治療薬のグローバル第2相臨床試験におけるPOC取得

研究開発代表機関

株式会社レストアビジョン
代表取締役CEO 堅田 侑作

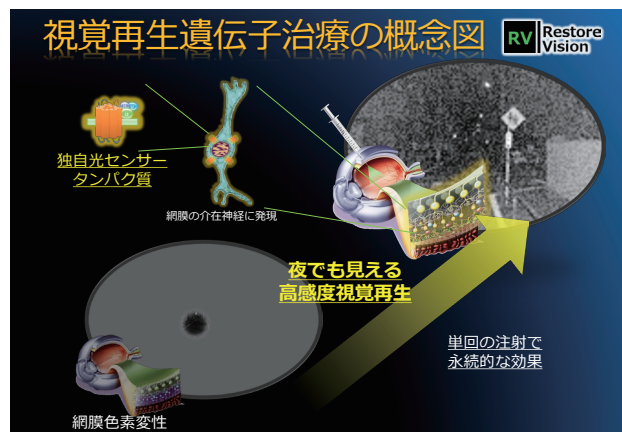


リード認定VC

Remiges Ventures, Inc.

課題概要

日本の失明原因第2位である網膜色素変性症を含む遺伝性網膜疾患には、依然として有効な治療法が存在せず、早期の開発が強く求められています。我々はこの課題に対し、独自の光センサータンパク質「キメラロドプシン」を用いた視覚再生遺伝子治療薬「RV-001」を開発します。網膜色素変性症は原因遺伝子が多岐にわたりますが、残存細胞に光感受性を付与し視覚を再生する本治療は遺伝子変異を問わず適応可能です。特にRV-001は高感度な酵素型オプトジェネティクスを採用し、既存技術では困難な実用的な視力再生も期待されます。さらにAAVベクターにより一度の投与で長期的効果が見込まれます。本事業では、日本の地の利を活かし、国内治験および国際治験でのPOC取得を目指します。



連絡先 <https://restore-vis.com/contact/>

HP <https://restore-vis.com>



K_{ATP} チャンネル阻害作用を有する 低分子アルツハイマー型認知症治療薬 NTX-083の開発

Neusignal Therapeutics 株式会社
代表取締役 有本 達



株式会社ファストラックイニシアティブ



CEO
有本 達

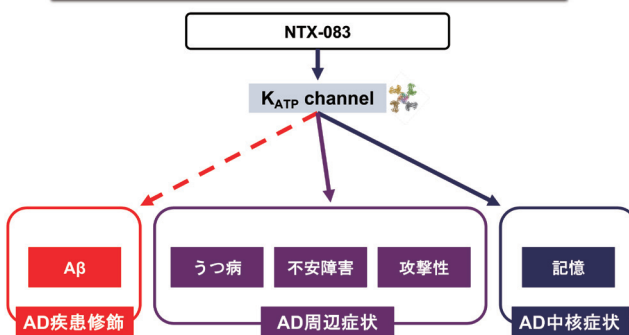
課題概要

世界的な課題の一つであるアルツハイマー型認知症(AD)に対し、当社は新規の作用機序を有する経口投与可能な低分子治療薬の創製を目指しています。

創業科学者である東北大学 准教授 森口茂樹博士らは、ATP 感受性カリウムチャンネル(K_{ATP} チャンネル)が認知・精神機能に対して重要な役割を果たしていることを発見しました。創業科学者の見出したNTX-083はK_{ATP} チャンネルを選択的に阻害し、AD の中核症状(認知機能障害)ならびに周辺症状(うつ症状・不安症状・攻撃性)を改善することをAD 病態モデルマウスで確認しています。さらに、症状進行を制御する「疾患修飾作用」も確認され、中核・周辺症状改善作用ならびに疾患修飾作用を有するAD の画期的な治療薬として期待されます。NTX-083のグローバルな臨床開発を推進すると共に、詳細なMoA 研究によるNTX-083の細胞内

シグナル伝達機序の解明を目指します。2025年8月時点、臨床第1相単回投与試験を実施中です。

低分子の限らない力で中枢神経系疾患を克服する



連絡先 <https://neusignal-tx.com/contact/>

HP <https://neusignal-tx.com/>



ミトコンドリア置換自己 T 細胞製剤によるがん治療薬の研究開発

イメル創薬株式会社
代表取締役 稲葉 太郎



イメル創薬株式会社

Remiges Ventures, Inc.
RDiscovery 株式会社



チーフ・プロジェクト・オフィサー
神谷 勇輝

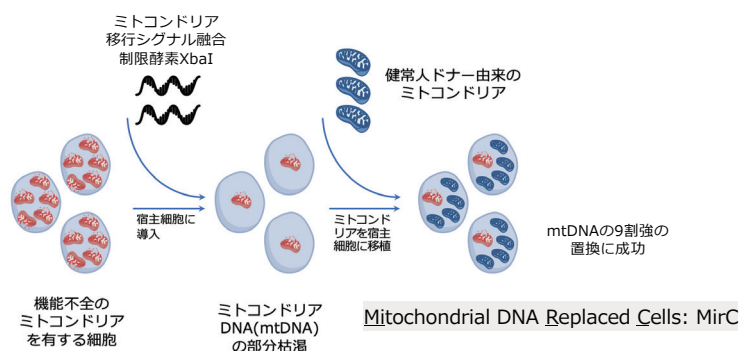
課題概要

がん免疫療法は、免疫チェックポイント阻害剤やCAR-T療法の登場により大きく進展しましたが、効果が得られない患者も少なくありません。その要因の一つが、T細胞を含む免疫細胞の疲弊や老化です。

近年、これらの状態にはミトコンドリア機能の異常が関与していることが明らかになっています。疲弊・老化したT細胞ではミトコンドリア機能が低下し、損傷ミトコンドリアの除去機能も障害されています。そのため、ミトコンドリア機能の回復はT細胞の機能改善に有効と考えられます。

しかし、こうした機能を直接回復し、がん免疫を高める治療法はまだ存在しません。この課題に対し、イメル創薬はT細胞のミトコンドリアを置換することで疲弊や老化を改善できる可能性を見出し、臨床応用を目指していま

す。本技術はこれまで十分な効果が得られなかった患者にも免疫療法の有効性を高めることができ、がん治療の選択肢拡大と健康寿命の延伸に大きく貢献すると期待されます。



連絡先 [info"AT"imeltx.com](mailto:info)

※ "AT" の部分を@に変えてください。

HP <https://imel-therapeutics.com/>



研究開発
課題名GPC3発現固形がんを対象とした低免疫原性同種 iPS 細胞由来
細胞傷害性 T 細胞療法の開発

研究開発代表機関

シノビ・セラピューティクス株式会社
代表取締役社長 等 泰道SHINOBI
THERAPEUTICS

リード認定 VC

Impresa Management LLC

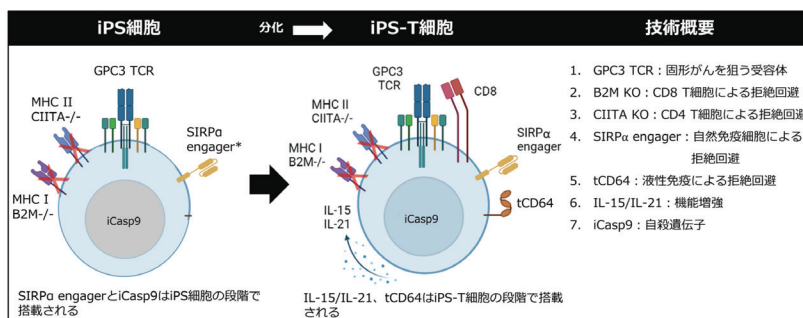
研究開発代表者

代表取締役社長
等 泰道

課題概要

次世代がん免疫治療として CAR-T 療法が注目されていますが、製造に患者自身の T 細胞を用いるため、安定した質・量の確保が困難であり、かつ非常に高額です。これらの課題を克服すべくシノビ・セラピューティクス株式会社は、拒絶を回避して繰り返し投与が可能な同種 iPS 細胞由来 T 細胞療法製品「NJA-001」を開発しています。NJA-001は1) GPC3(肝細胞がん等で高発現)を標的に腫瘍特異的で強力な細胞傷害性を有する、2)拒絶回避により繰り返し投与が可能、3)off-the-shelf製品である、という特徴を持ち、既存治療が無効な患者への有力な治療手段として期待されています。京都大学 iPS 細胞研究財団で製造し、京都大学医学部附属病院次世代医療・iPS 細胞治療研究センター、国立がん研

究センター東病院、がん研究会有明病院で第 I 相臨床試験を、さらに米国サイトを加えた第 IIb 相臨床試験を計画しています。本事業を通じて NJA-001 のヒト POC 確立を通じた日本の創薬エコシステム強化への貢献を目指します。



連絡先

info"AT"shinobitx.com

※ "AT" の部分を@に変えてください。

HP

<https://www.shinobitx.com/>研究開発
課題名

治療抵抗性転移再発 HER2陰性乳癌に対する新規治療法の開発

研究開発代表機関

ペリオセラピア株式会社

代表取締役社長 兼 最高執行責任者 田原栄治



リード認定 VC

大阪大学ベンチャーキャピタル株式会社

研究開発代表者

代表取締役社長
兼 最高執行責任者
田原栄治

課題概要

当社は大阪大学発の創薬ベンチャー企業で、難治性疾患向け抗体医薬品を開発しています。治療抗体と診断薬開発を組み合わせた包括的なアセットが強みです。

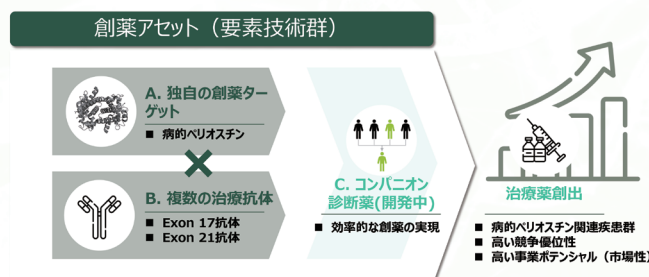
主要パイプラインは転移再発 HER2陰性乳癌向け抗体医薬品で、今年3月に国内臨床試験を開始し、米国治験準備も順調に進行中です。既存治療抵抗性のトリプルネガティブ乳癌は特に予後が悪く、世界的な課題となっています。

当社は抗癌剤抵抗性を引き起こす因子「ペリオスチン」とその病態特異的スプライシングバリエーションを発見し、安全性・腫瘍特異性に優れたバリエーション特異的治療抗体の開発に成功しました。対象市場はグローバルで4,400億円規模を有し、開発抗体は他疾患への適用や抗体薬物複合体の共同開発も可能です。日米での臨床試験を推進し、早期導出・上市を目指しています。

この革新的治療法は世界中の AYA 世代女性に希望をもたらし、当社は日本を代表するグローバルスペシャリティファーマへの成長を目指します。

当社の創薬アセットの特徴と要素技術群

“当社は独自の創薬アセットを活用することで多様な疾患に対する治療薬の創出を実現する。”



連絡先

<https://periotherapia.co.jp/contact/>

HP

<https://periotherapia.co.jp/>

代表取締役会長／研究開発統括
原田 直純研究開発
課題名腫瘍内のM2様マクロファージに選択的なナノ粒子ドラッグデリバリー
システムに搭載したTLR刺激薬による新規がん免疫療法の開発

研究開発代表機関

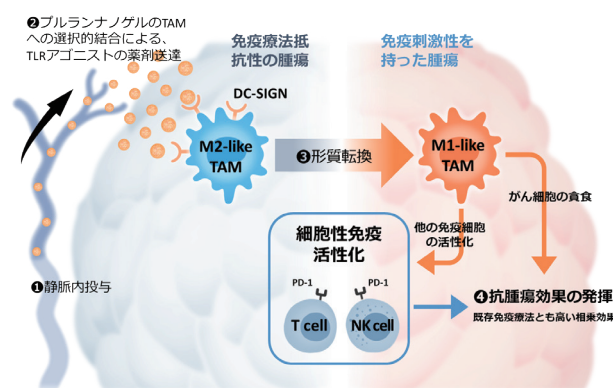
ユナイテッド・イムニティ株式会社
代表取締役社長 岸田 将人

リード認定VC

株式会社東京大学エッジキャピタル
パートナーズ

課題概要

我々は、コレステリルプルラン(CHP)という素材を活用したナノ粒子が、マウス腫瘍モデルへの腫瘍関連マクロファージ(TAM)にCHPの生理的受容体であるDC-SIGN受容体選択的に集積する薬剤として機能することを発見しました。この発見を活かし、がん免疫療法抵抗性の腫瘍において、TAMの機能を調節することで有効性と忍容性の高さが期待されるTLRアゴニストを包埋したCHP製剤、「UI-102」を発明しました。UI-102は全身投与薬として優れた薬理活性をマウス腫瘍モデル等で示し、他方でTLRアゴニストの全身毒性を緩和しました。現在、ステージ1で臨床試験に向けた治験薬の製造やIND準備の最終段階にあり、米国におけるFIH Ph1治験の開始を2026年前半に予定しています。ICI治療抵抗性の大多数の固形がん患者に新たな治療選択肢を提供して、価値が高い医薬品を世に送り出すことを目標としています。

連絡先 <https://unitedimmunity.co.jp/contact>HP <https://unitedimmunity.co.jp/>CSO
松原 由美子研究開発
課題名ヒト脂肪細胞由来血小板様細胞(ASCL-PLC)の難治皮膚潰瘍治療に対する
他家(同種)再生医療等製品としての開発

研究開発代表機関

株式会社AdipoSeeds
CEO&CFO 不破 淳二

脂肪から血小板をつくり、あたらしい血液の流れを創る。



リード認定VC

DCI パートナース株式会社

課題概要

AdipoSeedsが開発したヒト脂肪組織由来の血小板様細胞(ASCL-PLC)が産生されるメカニズムは、間葉系幹細胞が血小板の分化決定因子を内在しており、これら因子の発現は、間葉系幹細胞の維持培養時は僅かであるものの、トランスフェリンを含む血小板分化誘導培地を用いた培養時には、培養日数依存性に発現量が増加することにあります。このメカニズムの解明を通じて、AdipoSeedsは、ヒト脂肪組織を原材料に、遺伝子導入等を必要とせず、ASCL-PLCを他家再生医療等製品として製造する技術を確認しました。本補助事業では、ASCL-PLCを難治性皮膚潰瘍治療向けに開発を行います。難治性皮膚潰瘍は、治療に長期間を要するとともに、再発率も高く、潰瘍治癒が促進される新規治療法が望まれております。AdipoSeedsでは、2027年度までに探索的治験を終了し、POCを確認することを目指します。

他家再生医療等製品としての製造プロセスは確立済み。

連絡先 03-6822-0325
info"AT"adiposeeds.co.jp
※"AT"の部分を@に変えてください。HP <https://www.adiposeeds.co.jp/>

2024年度(令和6年度)採択課題

研究開発
課題名

低活動膀胱を対象とした低分子医薬品 SFG-02の開発

研究開発代表機関

Juro Sciences株式会社

代表取締役CEO 長袋 洋



リード認定VC

みやこキャピタル株式会社

研究開発代表者


 取締役
チーフサイエンティフィックオフィサー
田中 晃

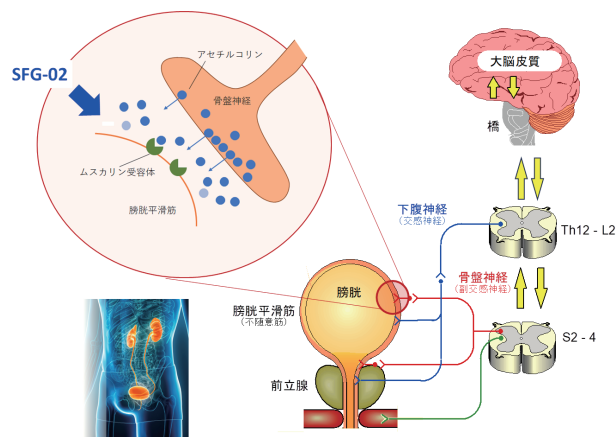
課題概要

対象疾患の低活動膀胱(underactive bladder; UAB)とは、加齢や中枢または末梢の神経障害などにより膀胱の収縮力が低下することにより生じる症状疾患です。症状には、膀胱充満感の低下、排尿量の減少、尿勢低下、排尿時のいきみ等があり、これらにより患者のQOLは著しく低下します。潜在的患者数は多く、一方有効な治療法が存在しないことから巨大なアンメットメディカルニーズを構築しています。

SFG-02は、UAB 治療薬として開発中の革新的な新規低分子酵素阻害剤です。複数の前臨床試験において、分子標的に対する高い選択性と、UAB 動物モデルにおける最適有効性が示されました。

第1相試験でSFG-02の薬物動態および安全性・忍容性を確認した後、UABを対象とした第2a相試験の実施を計画しています。

当社は、SFG-02がUABでQOLが低下している世界中の多くの患者にとって初の真に有効な治療薬となることを期待しています。

連絡先 <https://www.sfgsci.com/en/contact/>HP <https://www.sfgsci.com/juro/>

2024年度(令和6年度)採択課題

研究開発
課題名

新規経口脂質代謝制御剤 PRD001の脂質代謝異常症に対するPOC 取得

研究開発代表機関

PRD Therapeutics株式会社

代表取締役 細田 莞爾



リード認定VC

ジャフコ グループ株式会社

研究開発代表者

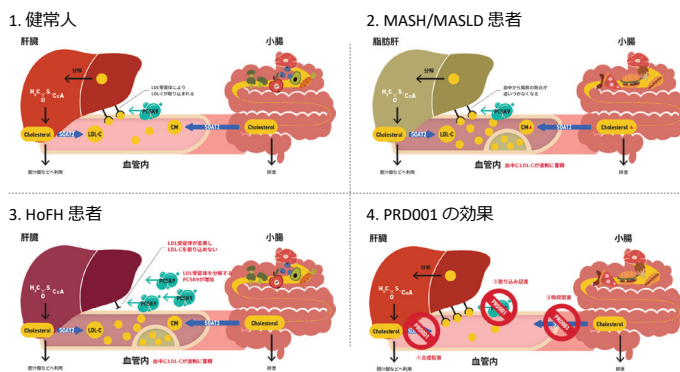

 代表取締役
細田 莞爾

課題概要

本事業では新規脂質代謝制御薬PRD001の臨床POC取得を目指します。PRD001の対象疾患として家族性高コレステロール血症ホモ接合体(HoFH)と、代謝機能障害関連脂肪肝炎(MASH)/代謝機能障害関連脂肪性肝疾患(MASLD)のいずれの開発可能性があることから本事業で見極めた上で臨床 POC 取得を目指します。

HoFHはLDL受容体関連遺伝子の変異による遺伝性疾患であり予後不良の希少疾患・難病です。MASH/MASLDは代謝機能不全により引き起こされる脂肪肝及び脂肪肝疾患であり、脂質異常症や糖尿病、肥満症等との関連により引き起こされる脂肪肝です。PRD001は、世界初の SOAT2 選択的阻害に基づき、血中及び肝臓中のコレステロールを低下させ動脈硬化を抑制する新たな革新的な治療薬となる可能性があります。

本事業では、臨床試験を実施することで、PRD001がHoFHやMASH/MASLDの新たな治療薬になりうるかを検証していきます。

連絡先 info@ATprdtherapeutics.com

※ "AT" の部分を@に変えてください。

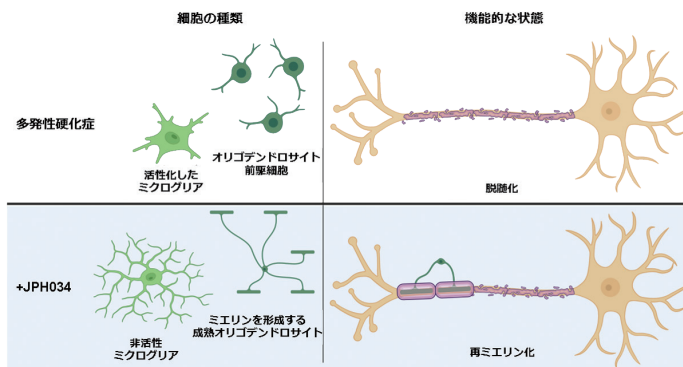
HP <https://prdtherapeutics.com/>

臨床開発・
薬事部 ディレクター
片山 創太

課題概要

多発性硬化症(MS)は、若年成人に多い慢性炎症性脱髄性神経疾患で、日本における患者数は約18000人と推計されています。MSは再発寛解型疾患として発症し、永続的な神経障害の発症と臨床的障害の進行が顕著となる二次進行性MSに進行します。MSに対して多くの疾患修飾薬が承認されていますが、病態の進行とともにくすぶり型MS(smouldering MS)と定義される慢性的な中枢局所炎症が主体となり、既存薬の有効性が失われていきます。当社は、米国 Georgetown 大学との共同研究を進め、マウス脱髄モデルにおいて、脱髄病変部に集積する活性化ミクログリアにLAT1が特異的に高発現していることを突き止めました。大阪大学が創製したLAT1非競合的阻害剤であるJPH034は、ミクログリアの活性化を抑制し、さらに再ミエリン化を促進することが明らかになりました。

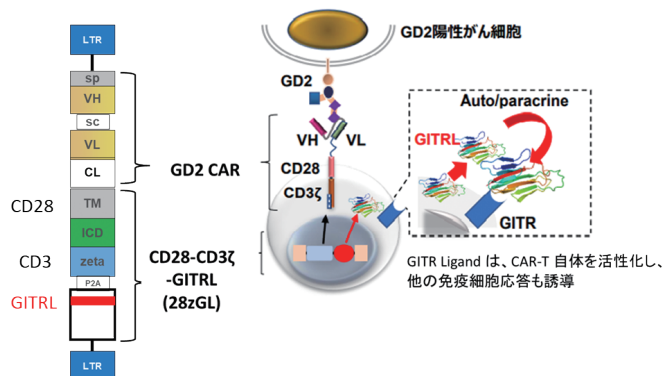
当社は、アンメットニーズの高い進行性MSの治療薬としてのJPH034の有効性を見極めてまいります。

取締役会長
竹迫 一任

課題概要

固形癌に対するCAR-T療法は種々の要因により未だ成功していません。本事業では難治性固形癌に対する新規CAR-T療法の実用化を目指します。このCAR-Tは、複数の癌種に発現している糖脂質抗原GD2を標的としており、特長は①GD2特異性が高いマウスモノクローナル抗体のscFvを細胞外ドメインに利用し、②分泌型GITRL(glucocorticoid-induced TNF receptor related protein ligand)を共刺激分子としたCAR遺伝子です。さらに、GD2 GITRL CAR-Tの製造に完全閉鎖式自動細胞調製装置を使用し、①製造各ステップでのチェックが不要、②大規模な無菌施設の設備投資が不要、となることから製造経費の減少が期待されます。また、小児では成人に比べ採血量に限界があるため、アフェレーシス血を出発材料としたCAR-T調製法を確立し、難治性神経芽腫を対象に治験を実施します。

次世代細胞内シグナルドメイン
CD28のシグナルに加え、恒常的にGITRLigandを分泌する



取締役 最高技術責任者
高橋 克研究開発
課題名

先天性無歯症患者の欠如歯を再生する新規抗体医薬品の開発

研究開発代表機関

トレジェムバイオフーマ株式会社
代表取締役社長 喜早 ほか

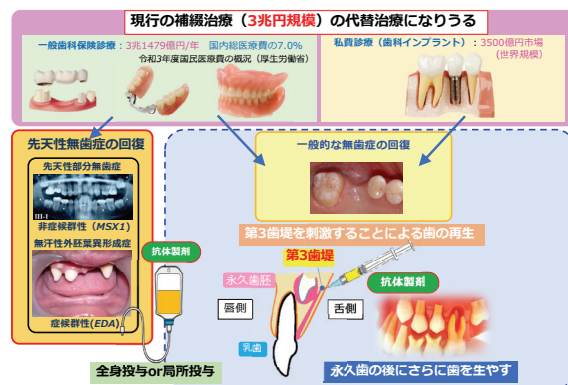
リード認定 VC

JICベンチャー・グロース・
インベストメンツ株式会社

課題概要

先天性無歯症とは、生まれつき歯が欠如している病態を指し、原因遺伝子としては、EDA1、WNT10Aなどが同定され、その多くがマウスとヒトで共通である。成人以降に義歯や歯科インプラントを用いた代替治療を施行するしかなく、根治的な治療として歯の再生治療が強く望まれていた。我々は、USAG-1遺伝子欠損マウスにおいて、過剰歯を形成することを見出し、1種類のタンパクにより歯の数が増えることを明らかにし、標的分子を同定した。また、先天性無歯症モデルマウスと過剰歯モデルマウスのUSAG-1遺伝子欠損マウスの交配により、歯の形成が回復することを見出した。ヒト化抗USAG-1抗体TRG035は、先天性無歯症モデルマウス・ビーグル犬において単回投与にて欠如歯を回復できることを明らかにした。PMDA対面助言を完了し、プロトコルを確定した。京大病院 Ki-CONNECT、医学研究所北野病院、トレジェムバイオフーマ株式会社、AMEDとの産官学の連携により、昨

年10月よりおよそ1年にわたる健常人を対象とした第1相臨床試験を実施している。



連絡先

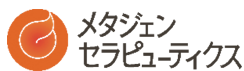
info"AT"toregem.co.jp
※"AT"の部分を@に変えてください。

HP

<https://toregem.co.jp/>取締役 CSO
寺内 淳研究開発
課題名

潰瘍性大腸炎治療薬 MGT-006の開発

研究開発代表機関

メタジェンセラピューティクス株式会社
代表取締役社長 CEO 中原 拓

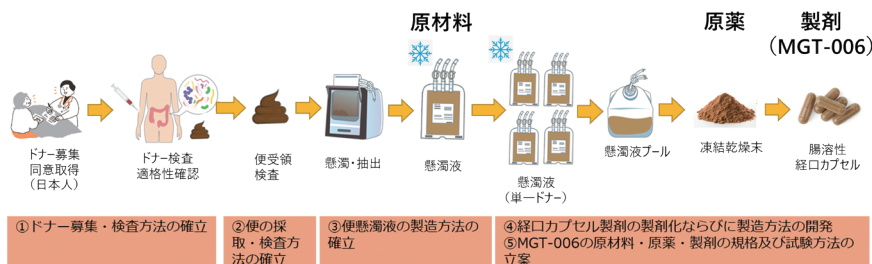
リード認定 VC

JICベンチャー・グロース・
インベストメンツ株式会社

課題概要

腸内細菌叢移植(FMT)は健康ドナーの便由来の腸内細菌を患者に移植する治療法で、米国や豪州では難治性クロストリディオイデス・ディフィシル感染症の治療法として承認されています。順天堂大学では2014年より潰瘍性大腸炎(UC)を対象としたFMTの臨床研究を実施しており、その成果を基に2020年にメタジェンセラピューティクスが設立されました。同社は、本治療法を世界中の患者さんに新たな選択肢とし

て提供するため、経口FMT製剤「MGT-006」の開発を進めており、製剤処方および製造体制を確立し、PMDAやFDAとの協議も開始しています。今後、国内外で治験を実施してPOC取得を目指します。中等症のUC患者に対し、本剤により寛解導入および長期寛解維持を可能にし、難治化や重症化を防ぐ新たな治療オプションとして、グローバルでの上市と普及を目標としています。



連絡先

contact"AT"metagentx.com
※"AT"の部分を@に変えてください。

HP

<https://www.metagentx.com>

研究開発
課題名全身性強皮症に伴う難治性皮膚潰瘍に対する血管内皮幹細胞を用いた
新規細胞治療薬の開発

研究開発代表機関

リバスキュラーバイオ株式会社
代表取締役CEO 大森 一生

リード認定VC

大阪大学ベンチャーキャピタル株式会社

代表取締役CEO
大森 一生

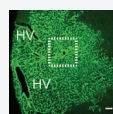
課題概要

世界で約250万人、国内で3万人といわれている指定難病である全身性強皮症は、毛細血管の障害により難治性皮膚潰瘍を引き起こします。現在血流改善効果をもたらす治療はほとんどなく、患者さんは長年に強い疼痛・機能障害に苦しめられます。

申請者らが世界ではじめて発見した「血管内皮幹細胞」は生体内の血管新生を担い、この細胞の潰瘍部への貼付により血管新生が生じ、局所の血流増加により創傷治癒を促進させることを動物実験で立証済みです。本事業ではこの血管内皮幹細胞を細胞医薬品として実用化すべく、製法確立および非臨床試験、さらには日本でのFirst in Human試験(Ph1/2試験)、ス米国Ph1/2試験の完了を目指します。本事業の実現は、難治性皮膚潰瘍に苦しむ患者さんを苦痛から解放し、さらには心疾患、認知症といった未解決の他の血管障害に起因する疾患の新規治療創出へもつながるものです。

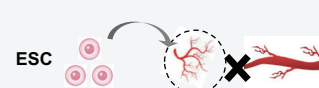
微小血管の課題を新発見の幹細胞で治療

Technology

血管内皮
幹細胞
(ESC)(PCT/JP2018/042255)
Granted: JP, US, CA
Pending: EP, AU, CN

Concept

①破壊された微小血管の再生



②血管がつくる因子の欠損の復活

e.g. 凝固因子(血友病)

連絡先 <https://revascularbio.com/contact/>HP <https://revascularbio.com/>研究開発
課題名

小児希少血液疾患に対する新規 ex vivo 増幅造血幹細胞治療製品の開発

研究開発代表機関

セレイドセラピューティクス株式会社
代表取締役社長 兼 CEO 荒川 信行

リード認定VC

株式会社東京大学エッジキャピタル
パートナーズ取締役, COO/CFO
井上 雄介

課題概要

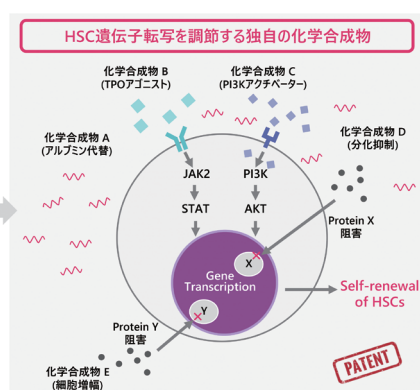
本事業では、小児期に発症する重度・希少血液疾患に対し、新規造血幹細胞(HSC)治療製品「CLD-001」の米国での臨床POC取得を目指します。対象疾患の再生不良性貧血や原発性免疫不全症などは、HSC移植以外に根治療法は存在しません。現行治療では、①移植後の生着不全による死亡、②骨髄ドナー不足、③移植後の重度GvHD(移植片対宿主病)という大きな課題があります。

当社は、HSCのエピジェネティックな遺伝子発現制御に注目し、独自に見出した新規化学合成物により、長期骨髄生着能を持つCD34⁺細胞を高純度かつ大量増幅する技術を確認しました。CLD-001は、①移植後の生着不全による死亡リスクを減らし、また凍結さい帯血を細胞ソースとすることで②③課題も解決する製品です。現在、米国CDMOにて製造工程の開発を進めており、GMP製造・GLP安全性試験を経て、米国でPhase1/2試験を実施予定です。

CLD-001 製造・治療



当社の造血幹細胞(HSC)増幅メカニズム

連絡先 contact@celaidtx.com
※ "AT" の部分を@に変えてください。HP <https://celaidtx.com/>

自己免疫性疾患等に対する抗原特異的な免疫細胞療法の開発

レグセル株式会社

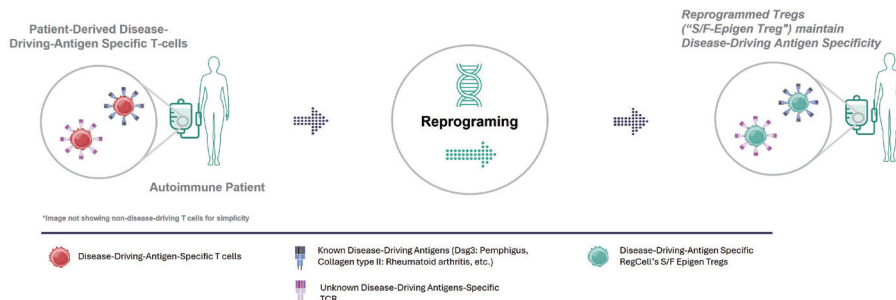
代表取締役 マイケル・マッキュラー

株式会社東京大学エッジキャピタル
パートナーズ代表取締役
マイケル・マッキュラー

課題概要

レグセル株式会社は、自家制御性T細胞(Treg)医薬品を開発、製造しています。当社が開発中のRegPD101は、患者由来細胞を用いた高い生体適合性、高機能性、高安定性のTregによる、自己免疫疾患の根治を目指しています。坂口志文博士、三上統久博士らが開発した独自のエピジェネティックリプログラミング技術により、遺伝子改変を介さず抗原特異的Tregを高純度に大量製造可能な技術を確認し、複数の自己免疫疾患や炎症性疾患モデルで動物POCを示しています。本事業では、アンメットメディカルニーズが高く市場性が期待できる自己免疫疾患を対象とし、GMP準拠の

米国 CDMO で製造された Treg を用い、in vitro および in vivo のモデルで得られた有効性・安全性データを基に米国等での臨床POCの達成を目指します。強力な米国バイオテクエコシステムとの連携により、最適な体制で事業展開を推進いたします。



連絡先 06-4798-5531

HP <https://regcellbio.com>免疫療法抵抗性固形がんのための
腫瘍組織特異的 pH 応答性 IL-12 内包高分子ミセルの開発Red Arrow Therapeutics 株式会社
代表取締役 田島 里華

Beyond Next Ventures 株式会社

代表取締役
田島 里華

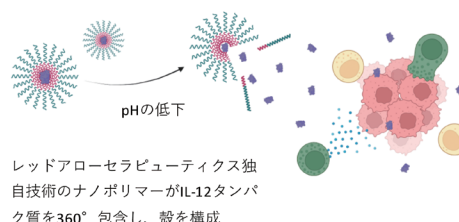
課題概要

IL-12は、体内にもともと存在し、免疫機能をサポートするタンパク質の一種です。数十年前から、IL-12をがん組織に投与して免疫機能を高め、がんを治療しようとするアイデアがありました。しかし、IL-12は全身に強い毒性を引き起こすため、安全に使用できる薬剤としての開発は難航してきました。

レッドアローセラピューティクスでは、独自の特許技術である pH 応答性ナノポリマーを使い、この課題の解決に挑んでいます。このナノポリマーでIL-12を包み込むことで、全身に投与してもナノポリマーの殻がIL-12の毒性を抑え、がんの周囲に到達したときだけpHの変化を感じて殻を開き、IL-12を局所的に放出します。これにより、IL-12をがん組織に集中的に届け、副作用を抑えた治療が可能になることを目指しています。

ステージ1の目標は、ナノポリマーで包んだIL-12が実際に効果を発揮し、

副作用が抑えられるかを確認するための動物実験データを集めることです。また、現在は少量しか製造できていないこの薬剤を、多くの患者さんに届けられるよう、大量生産の可能性についても初期検討を行います。



pH変化に反応し殻が破れIL-12ががん組織に局所的に送達された結果、T細胞、B細胞、樹状細胞など種々の免疫物質が惹起され、がん組織を攻撃

連絡先 03-6820-0861

HP <https://redarrowtx.com/>

神経変性疾患の治療を目的とした新規遺伝子治療薬の開発

reverSASP Therapeutics株式会社
代表取締役CEO 鳥居 慎一

株式会社ファストトラックイニシアティブ

代表取締役CSO
辻 真之介

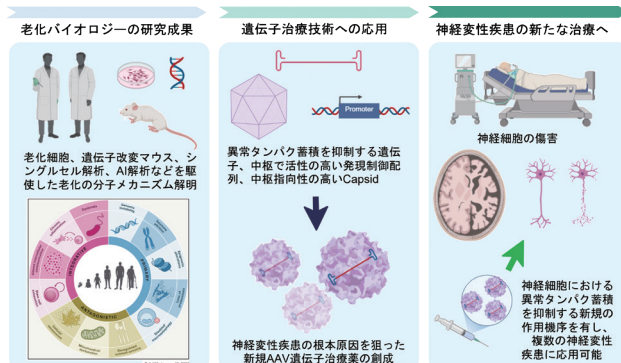
課題概要

神経変性疾患は、脳の神経細胞が徐々に傷害を受けることで、患者の記憶や運動機能、認知機能など、様々な脳の機能に大きな影響を与えます。多くの神経変性疾患は加齢にともなって発症リスクが高まることから知られており、老化が疾患の発症と進行を促進する重要なリスク要因であることが分かっています。とりわけ、脳内に異常なタンパク質が蓄積することが神経細胞の傷害や機能不全を引き起こす重要な原因として考えられています。

現在までに、これら神経変性疾患の進行を根本的に止める治療法は確立されていません。そのため、疾患根本メカニズムを改善し、病気の進行抑制・症状改善を可能にできる新しい治療薬の開発が強く求められています。

本補助事業では、最新の老化研究から得られた科学的知見と独自の技術を応用し、神経細胞における異常タンパク蓄積を抑制する新規遺

伝子治療薬を開発することで、日本発の難治性神経変性疾患に対する革新的医薬品の創出を目標としています。



連絡先 03-5534-5701

HP

<https://www.reversasp.com/home>

自己免疫疾患を対象としたCD19CAR 導入低免疫原性同種iPS細胞由来ナチュラルキラー細胞療法の開発

シノビ・セラピューティクス株式会社
代表取締役社長 等 泰道

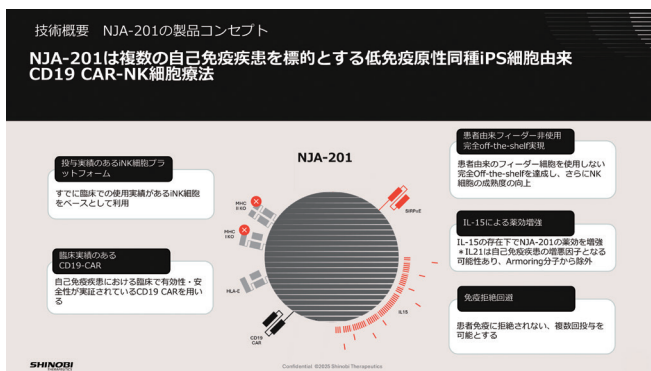
Impresa Management LLC

代表取締役社長
等 泰道

課題概要

シノビ・セラピューティクス株式会社は、自己免疫疾患を対象としたCD19キメラ抗原受容体(CAR)導入低免疫原性同種iPS細胞由来ナチュラルキラー(NK)細胞療法「NJA-201」の開発を目指しています。この治療薬は、全身性エリテマトーデス、ループス腎炎、重症筋無力症などの自己免疫疾患のなかで既存治療に抵抗性の患者をターゲットとします。京都大学iPS細胞研究所と国立がん研究センターで進められたGPC3特異的CAR導入同種iPS細胞由来NK細胞療法の医師主導治験で確立されたiPS細胞由来NK細胞の製造プラットフォームを基盤としつつ、新たにIL15による細胞傷害性強化および低免疫原性化技術を導入します。これにより薬効の更なる向上とNJA-201に対する免疫拒絶反応の回避による繰り返し投与が期待されます。本補助事業では非臨床試験から第Ib相臨床試験までを実施し、ヒトでの概念実証の確

立を目的としています。これにより、日本国内における当該疾患領域でのドラッグラグ解消と創薬エコシステム強化への貢献を目指します。

連絡先 info"AT"shinobitx.com
※"AT"の部分を@に変えてください。

HP

<https://www.shinobitx.com/>

2024年度(令和6年度)採択課題

研究開発
課題名低分子化合物 GXV-001の脆弱X症候群を対象とした
グローバル臨床第2a相POC試験

研究開発代表機関

株式会社ジェクスヴァル
代表取締役社長 加藤 珠蘭

リード認定VC

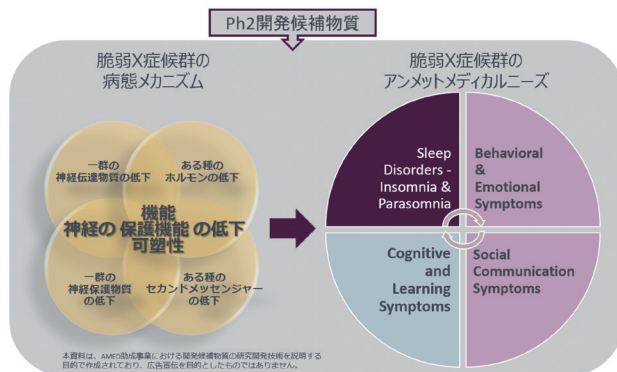
三菱UFJキャピタル株式会社

研究開発代表者

シニアディレクター
小林 俊威

課題概要

脆弱X症候群(Fragile X Syndrome, FXS)は、*FMR1*遺伝子の変異による希少な神経発達障害であり、知的障害、発達遅延、自閉症様行動、ADHD様行動、睡眠障害(Insomnia, Parasomnia等)、不安、感覚過敏等の多様な症状を呈し、患者や家族のQOLが著しく影響を受けます。現在、根本的な治療法はありません。日本では約5,000人以上の患者が推定されますが、本邦での診断率は諸外国に比べて著しく低く、診断されている患者はわずかです。GXV-001は、中枢疾患を対象として開発中の新規低分子化合物であり、非臨床試験において、標的に対する選択性、病態の分子メカニズムに対する活性、およびFXS動物モデルにおける評価が完了しました。健康成人を対象とした第I相試験では、薬物動態、安全性・忍容性のエンドポイントを達成し、POMについても確認しました。本事業では、FXS患者を対象とした第IIa相試験の実施を計画しています。



連絡先

info"AT"@gexval.com

※"AT"の部分を@に変えてください。

HP

<https://gexval.com/>

2024年度(令和6年度)採択課題

研究開発
課題名重篤な遺伝子疾患に対する、mRNAを使用した
Gene Writingによる遺伝子治療パイプラインの開発

研究開発代表機関

タイプライターTX合同会社
職務執行者 吉川 真由TYPEWRITER
Therapeutics

リード認定VC

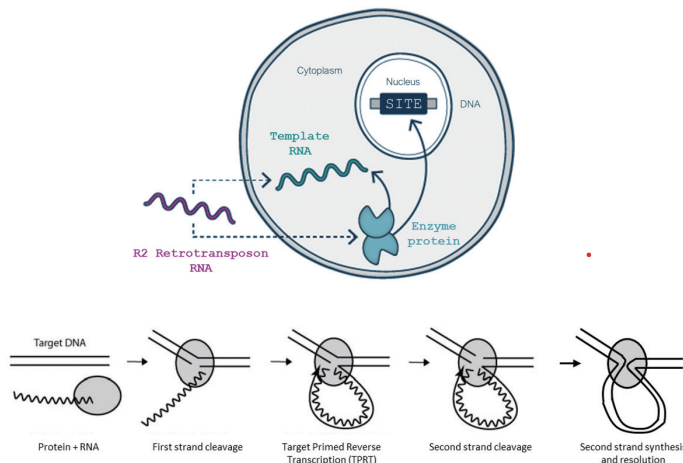
ANV Management, LLC

研究開発代表者

Head of R&D Japan
一川 隆史

課題概要

Typewriter Therapeutics(タイプライター・セラピューティクス)は、ゲノムに治療用遺伝子を正確に書き込む次世代型の遺伝子編集技術(Gene Writing)を開発する東京大学発のバイオベンチャーです。最先端トランスポゾン応用技術を基盤に、従来治療法のない重篤な遺伝性疾患に対して革新的な遺伝子治療法を提供することを目指しています。日本(千葉県柏市)と米国マサチューセッツ州ケンブリッジに研究拠点を置き、日本発のイノベーションを世界の患者さんへ届けることが私たちの使命です。



連絡先

千葉県柏市柏の葉5丁目4-6 東葛テクノプラザ613号室
04-7107-5807 recruitjp"AT"typewritertx.com

※"AT"の部分を@に変えてください。

HP

<https://www.typewritertx.com/>

代表取締役CEO
浅野 智之研究開発
課題名アミノ酸トランスポーターのロッキング阻害による
革新的な新規抗がん剤の開発

研究開発代表機関

Atransen Pharma 株式会社

代表取締役CEO 浅野 智之 代表取締役COO 河合 信宏



リード認定VC

ジャフコグループ株式会社

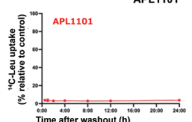
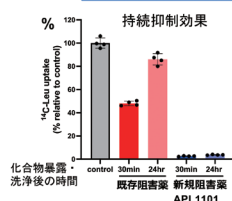
課題概要

Atransen Pharmaは、がん細胞特異的に発現するアミノ酸トランスポーターLAT1を標的とする分子標的薬の創薬に特化したベンチャーであり、独自のスクリーニング技術と構造科学に基づいた創薬を強みとしています。主力開発品APL1101は、LAT1の3次元構造を元に設計された化合物で、LAT1のアミノ酸輸送経路を阻害し、腫瘍の成長を抑制する「ロッキング阻害」という新規作用機序を有し、高い安全性が期待されます。本事業では、APL1101の非臨床試験を通じたヒト用量の設定と安全性評価を完了後、第I相および第IIa相でのバスケット型臨床試験、第IIb相での比較試験を実施し、複数のがんにおける臨床POC取得を目指します。国内外の医療機関やCROと連携し、グローバル市場を見据えた開発を推進してまいります。



APL1101による強力なロッキング阻害

開発化合物APL1101は、LAT1への強い持続抑制効果を示す



「ロッキング阻害」としての新たな阻害様式

阻害薬 + LAT1 ⇌ 阻害薬・LAT1 → locked conformation

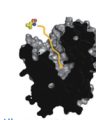
結合親和性(K_{on} , K_{off})で説明できる可逆的過程

$$K_i = \frac{[\text{阻害薬}] [\text{LAT1}]}{[\text{阻害薬} \cdot \text{LAT1}]} = \frac{K_{off}}{K_{on}}$$

結合親和性では説明できない不可逆的過程

【ロッキング阻害】

PCT/JP2023/013197, WO2023190878A1



連絡先

admin"AT"atransen.com

※ "AT" の部分を@に変えてください。

HP

https://atransen.com

取締役 職務執行者
貝原 達也研究開発
課題名膀胱癌、膵癌、胃癌、大腸癌を含むルミナル癌に対する治療を目的とした
ファーストインクラス経口型低分子薬の研究開発

研究開発代表機関

CORE Biomedicine Japan 合同会社

取締役 職務執行者 貝原 達也

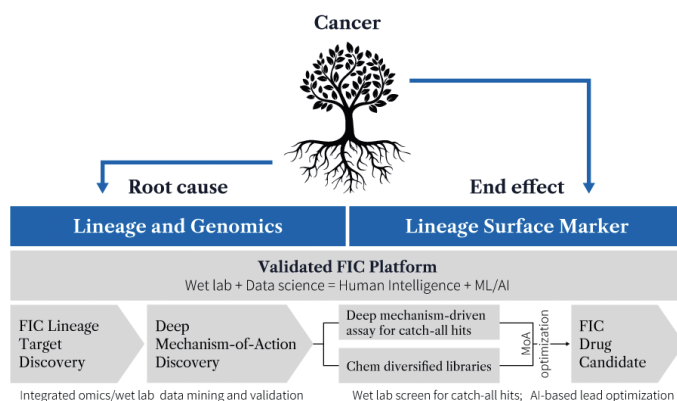


リード認定VC

東京大学協創プラットフォーム開発
株式会社

課題概要

ルミナルがん(膀胱がん、膵がん、胃癌、大腸がんなど)は依然として治療選択肢が限られており、世界的に大きなアンメット・メディカル・ニーズを抱えています。近年のゲノム研究により、腫瘍の増殖を駆動し、免疫療法への抵抗性にも関与する系統特異的な転写因子に異常があることが明らかとなり、これらは世界で50万人以上の患者に影響を及ぼすと推定されています。当社はこの課題に対処するため、CORE-1201を開発しました。CORE-1201は、この転写因子を標的とする選択的かつ強力な経口低分子阻害剤です。前臨床試験では、膀胱がんPDXモデルにおいて顕著な腫瘍退縮を示し、さらに既存の標準治療との併用で相乗的な抗腫瘍効果を確認しました。現在、IND申請に向けた非臨床試験とGLP/GMP製造を進めており、迅速に臨床開発へ移行することを目指しています。



連絡先

https://corebiomedicine.com/#contact

HP

https://corebiomedicine.com/



Head of R&D, VP
中丸 健治研究開発
課題名再発性膠芽腫の腫瘍細胞及び腫瘍微小環境を標的とする
抗 FAPα CAR-T細胞の開発

研究開発代表機関

オプティウム・バイオテクノロジー株式会社
代表取締役 西岡 駿

OPTIUM
BIOTECHNOLOGIES

リード認定 VC

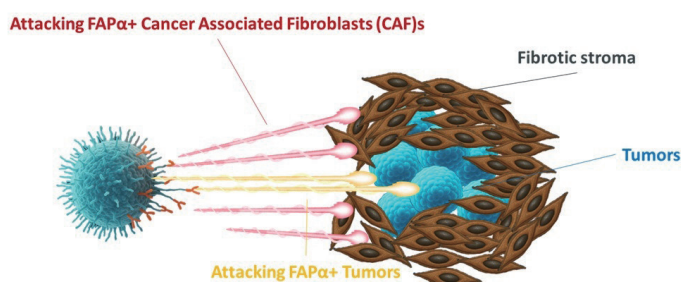
Saisei Ventures LLC

課題概要

当社の基盤技術である Eumbody System は、一本鎖抗体の改変により高い殺細胞活性、増殖性、効果持続性をもつ最適化 CAR-T 細胞の設計を可能とします。現在当社はこの技術により創出された FAPα (Fibroblast activation protein-α) を標的とする FL12-CAR-T の研究開発を進めています。FL12-CAR-T は FAPα を発現する細胞を極めて特異的に傷害、除去することができ、また Eumbody System 由来の CAR-T としての増殖性、効果持続性を併せ持っています。標的の FAPα は、膠芽腫をはじめとする数種の癌の腫瘍細胞で、また癌の免疫抑制や薬剤耐性をもたらす癌関連線維芽細胞において発現していることが報告されており、FL12-

CAR-T による FAPα 発現細胞の除去は、膠芽腫をはじめとする多くの癌の治療の大きなブレイクスルーになると考えています。

Targeting FAPα in the Tumor Microenvironment and Tumor OPTF01 - A Novel Dual-Target Mechanism that Addresses Both the Tumor and Stroma



連絡先 info"AT"optieumbio.com

※ "AT" の部分を@に変えてください。

HP <https://optieumbio.com/>

取締役 研究開発本部長
菅家 徹研究開発
課題名固形がんを高発現する GPCR を標的とした抗体・薬物複合体 (ADC) による
新規がん治療薬の開発

研究開発代表機関

リベロセラ株式会社
代表取締役社長 大堀 誠



リード認定 VC

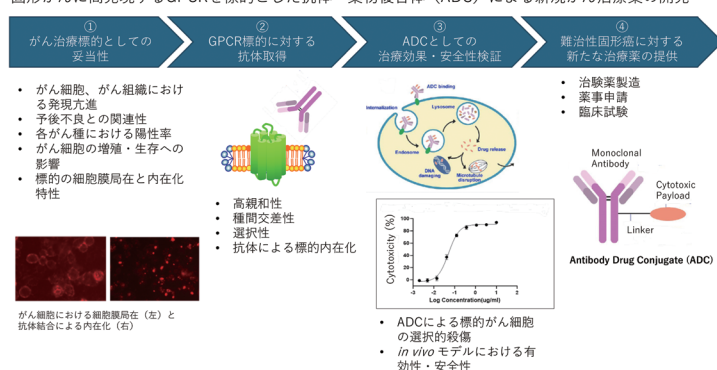
東京大学協創プラットフォーム開発株式会社

課題概要

様々な固形がんを高発現している GPCR (G タンパク質共役受容体) を標的とした、First-in-class 抗体薬物複合体 (ADC) の開発を行います。GPCR ファミリーは抗体創薬を行う上で困難を伴うことの多い標的 (Undruggable Target) ですが、当社はその基盤技術を駆使することで、標的 GPCR に対して高い結合性を示す抗体を取得し、ADC としての開発を行っています。本補助事業では、ADC としての臨床 POC 取得に向けて、リード ADC の最適化を進め、動物試験による有効性と安全性を評価し開発候補品を決定します。引き続き、製造に向けたセルライン構築の開始、並びに PK および PD 系の構築を行います。臨床試験では、用量漸増試験を実施し安全性を確認するとともに有効性シグ

ナルを捉え臨床 POC 取得を目指します。難治性の固形がんに対する有効な治療薬を全世界のがん患者様に届けます。

固形がんを高発現する GPCR を標的とした抗体・薬物複合体 (ADC) による新規がん治療薬の開発



連絡先 info"AT"liberothera.com

※ "AT" の部分を@に変えてください。

HP <https://www.liberothera.com/>



代表取締役 CEO, CScO
安藤 弘樹研究開発
課題名

緑膿菌肺炎に対するバクテリオファージカクテル ARW001の開発

研究開発代表機関

株式会社 Arrowsmith

代表取締役 CEO, CScO 安藤 弘樹

Arrowsmith

リード認定 VC

ジャフコ グループ株式会社

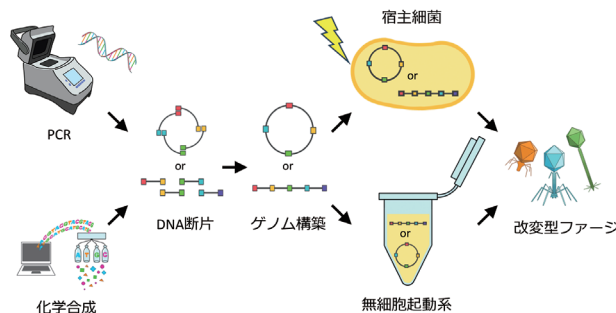
課題概要

株式会社 Arrowsmith は、細菌の天敵ウイルスであるバクテリオファージを用いて、薬が効かない細菌感染症や治療に難渋する細菌感染症に対する革新的治療法「ファージセラピー」を開発する創業スタートアップです。

リードプログラム ARW001 は緑膿菌感染症に対するファージカクテルです。複数種のファージから構成されており、広い宿主域・高い殺菌性・優れた安定性を兼ね備えています。さらに、ARW001 には当社独自の「合成改変法」(右図)とノウハウから創出された改変型ファージが含まれています。この改変型ファージは、緑膿菌を認識する部位の改変によって幅広い臨床分離株への感染および殺菌と、機能性遺伝子搭載によるバイオフィルム(緑膿菌が産生するバリア様物質)の効率的な分解を実現します。

本課題では、ARW001 の臨床応用に向けて、非臨床評価、

CMC、規制当局対応を進め、海外での早期臨床試験を通じてその有効性・安全性・臨床的有用性の実証を目指します。



合成改変法 (Synthetic Engineering Platform): 改変型ファージゲノムを設計し、これを構築するために必要なDNA断片をPCRもしくは化学合成によって用意する。DNA断片を試験管内で連結し、環状もしくは線状の改変型ファージゲノムを構築する。適切な宿主細菌もしくは無細胞起動系へ入れることで改変型ファージを起動させる。

連絡先

<https://arrowsmith.co.jp/jp/contact>

HP

<https://arrowsmith.co.jp/jp>
取締役兼財務・運営部 運営部長
マーカス・オーチョウスキー研究開発
課題名CD19/CD20陽性の再発・難治性 B 細胞悪性リンパ腫に対する
二重特異性他家 CAR-T 細胞療法の臨床開発

研究開発代表機関

AvenCell Japan 株式会社

代表取締役兼最高経営責任者 アンドリュー・シャーマイヤー

AVENCELL

リード認定 VC

Eight Roads Capital Advisors
Hong Kong Limited

課題概要

CD19標的の自家 CAR-T 細胞療法の進展により、これまで治療が困難であった再発・難治性リンパ腫等においても治療が可能となっておりますが、多くの患者様においては治療抵抗性のため再発し、効果が持続しません。また、現在承認されている CAR-T 療法は自家由来であり、開発コストや治療開始までの時間、さらには患者様自身の CD8 細胞の疲弊状態に依存するという課題が存在します。

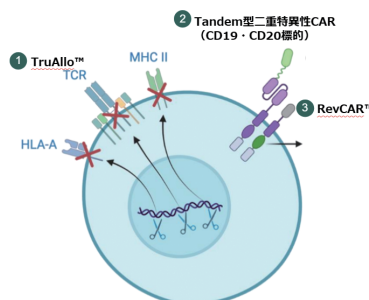
弊社他家開発品 AVC203 はこれら従来の治療法の課題を解決する、3つの技術から構成されています。まず1つ目の TruAllo™ により、種々の免疫拒絶機構を回避することで他家 CAR-T 細胞療法の持続性の問題を解決をしております。

2つ目の、Tandem 型二重特異性 CAR は、治療抵抗

性の問題解決と有効性向上を実現する技術であり、弊社開発品では CD19 と 20 を標的とする二重特異性 CAR を搭載しております。

3つ目の、RevCAR™ は、Targeting Module を使用し、抗原に対するオン・オフの切り替えを可能とするプラットフォーム技術となります。

AVC203 は従来の治療法の課題を解決する3つの技術から主に構成されている



- 1 TruAllo™
他家 CAR-T 細胞療法の持続性の問題解決を目的とした技術であり、既にヒトでの投与実績があり 130 日以上細胞が生ずる例も存在する
- 2 Tandem 型二重特異性 CAR
既存治療法の治療抵抗性の問題解決と有効性向上を実現する技術であり、AVC203 では CD19 と CD20 を標的とする二重特異性 CAR を搭載する
- 3 RevCAR™
CAR-T 細胞自体の追加開発を必要なく、第三の新たな抗原に対する指向性のオン・オフを切り替えられるプラットフォーム技術。将来的には AVC203 を基軸に追加のパイプラインを生み出す

連絡先

<https://avencell.com/contact/>

HP

<https://avencell.com/>


研究開発
課題名CRISPR-Cas3ゲノム編集技術を用いた
原発性免疫不全症に対する造血幹細胞移植治療法の開発

研究開発代表機関

C4U株式会社

代表取締役 平井 昭光



リード認定 VC

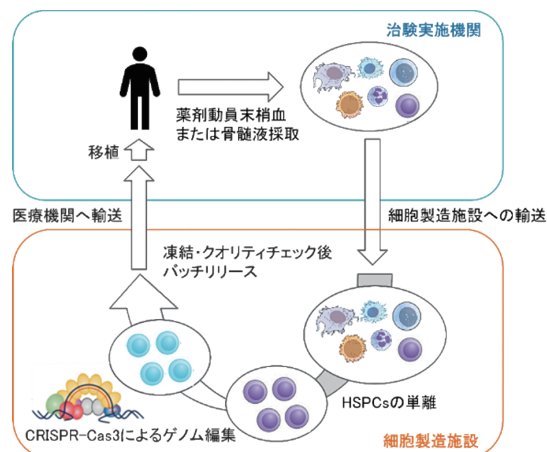
DCIパートナーズ株式会社

研究開発部長
横山 一剛

課題概要

原発性免疫不全症は、遺伝子の変異により生まれつき免疫システムの一部に異常があることで細菌やウイルスへの抵抗力が低下し、重い感染症を繰り返しやすい疾患の総称です。根治治療として同種造血幹細胞移植が行われていますが、移植片対宿主病(GvHD)などの移植後合併症による死亡例も少なからずあることから、その実施可否や実施時期については統一した見解がないのが現状です。

そこで、患者自身の造血幹/前駆細胞(HSPCs)を採取し、国産のゲノム編集技術であるCRISPR-Cas3システムを使って原因となる遺伝子変異を修復したのちに、正常化したHSPCsを患者に戻す治療法の開発を計画しました。これにより、GvHDの発生を懸念することなく、生涯に一度の治療で健常人と同じレベルまで免疫能を正常化する革新的な治療法(ex vivo遺伝子治療用製品)が提供できます。



連絡先

info"AT"crispr4u.com

※ "AT" の部分を@に変えてください。

HP

<https://www.crispr4u.jp/>研究開発
課題名

フェロトシス誘導性抗がん剤

研究開発代表機関

株式会社 FerroptoCure

代表取締役 大槻 雄士



リード認定 VC

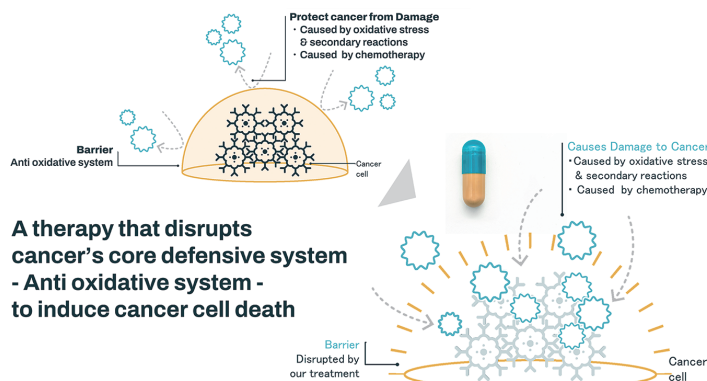
ANRI 株式会社

代表取締役
大槻 雄士

課題概要

がん治療において薬剤耐性は依然として大きな課題であり、化学療法、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬など既存治療が効果を示さない症例が多数存在します。特に再発・転移がんや難治性がんでは、治療中ながん細胞が細胞死回避機構を獲得し、薬剤耐性を示すことが治療成績向上の大きな障壁となっています。近年、鉄依存性細胞死(フェロトシス)の回避がこの耐性機構の一因であることが明らかになり、新たな治療標的として注目されています。本課題で開発するFC004は、フェロトシスを選択的に誘導し、従来治療で効果が不十分ながんに対して新たな治療選択肢を提供する経口低分子化合物です。非臨床試験におい

て有効性と安全性が確認されており、薬理・毒性・製造の各面から開発を加速し、海外での早期臨床試験開始を目指します。



連絡先

yotsuki"AT"ferroptocure.com

※ "AT" の部分を@に変えてください。

HP

<https://ferroptocure.com>



応募に関する個別相談

応募に関する面談でのお問合せ(個別相談)を以下のとおりお受けいたします。

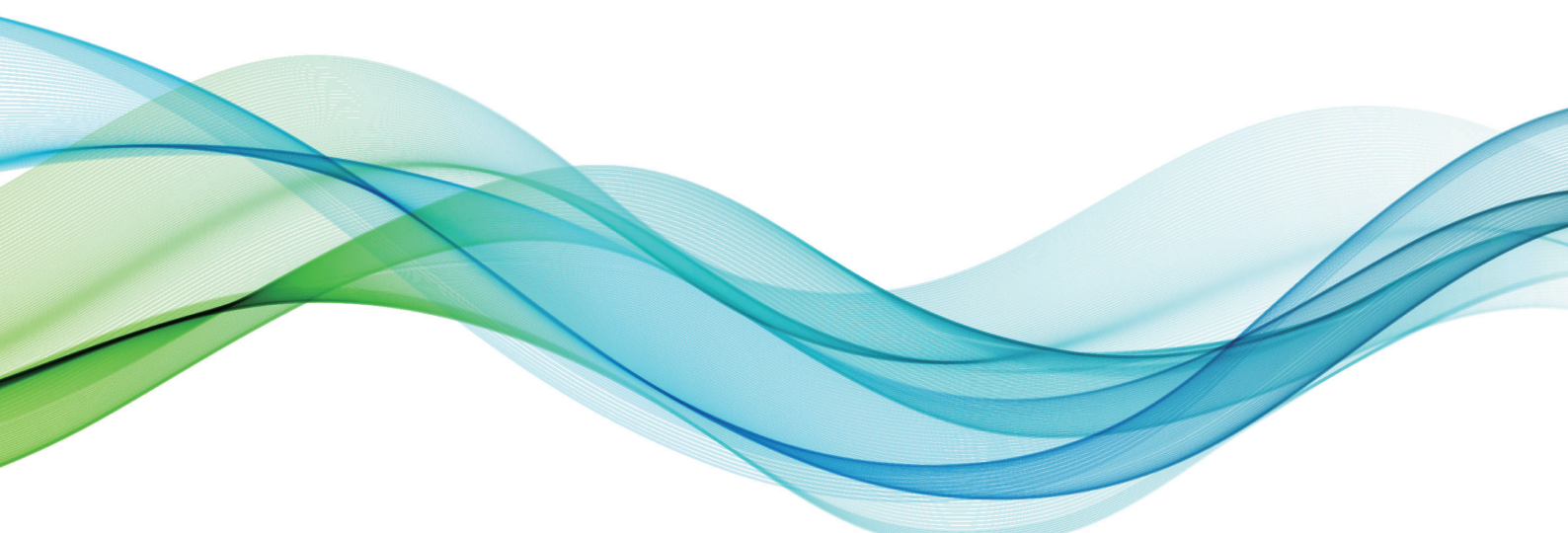
なお、公募期間中の個別相談は行いません。

- 対象者:本事業に応募を考えているVCや創業ベンチャー企業の方
- 相談の流れ:E-mailで下記アドレスに相談事項を記載のうえ、お申し込みください。
本文内に回答先(法人名、担当者のお名前・電話番号・E-mailアドレス)を明記してください。
担当者から相談日時をご連絡いたします。相談内容の守秘義務を遵守いたします。
- 実施形態:オンライン(Web会議)あるいは対面での面談

お問合せ先

国立研究開発法人日本医療研究開発機構
創薬エコシステム推進事業部 創薬エコシステム推進事業課
創薬ベンチャーエコシステム強化事業 担当
E-mail: v-eco "AT" amed.go.jp

※ "AT" の部分を@に変えてください。



国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
Japan Agency for Medical Research and Development

創薬ベンチャーエコシステム強化事業
創薬エコシステム推進事業部
創薬エコシステム推進事業課

<https://www.amed.go.jp/program/list/19/02/005.html>



AMED



<https://www.amed.go.jp>

2025年9月